
へりくつエッセイ

真浦塚真也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

へりくつエッセイ

【ZPDF】

N O 1 7 2 F

【作者名】

真浦塚真也

【あらすじ】

真浦塚真也の『へりくつ』だらけの『エッセイ』

皆さん、はじめまして。真浦塚真也と申します。自分のペースでのんびりと小説等を書いている者です。

今回、『へりくつエッセイ』という連載を書いてみようと思いまして、ここで趣向を説明させて頂きたいと思います。

『へりくつエッセイ』は文字通り、

「へりくつ」で書く

「エッセイ」です。

自分の持てるだけのへりくつ、言い訳を注いだエッセイに出来ればと考えています。ただ、このエッセイは私の偏った考え方で書いていく事が予想されますので、読む人によっては気分を悪くされることがあるかもしれません。その時は、本当に申し訳ありません。

飽きやすい性格なんで、こつまで連載するかは分かりませんが、軽い気持ちで御覧頂き、楽しんで頂けたらなあと考えています。

それでは、よろしくお願いします。

まつめ（後書き）

御覧頂き有難うございます。いつまで連載するかは分かりませんが、
よろしくお願い致します。

その1 メニューの名前にこもる想い

最近、とくに前から思つてこないなんですが、レストランや喫茶店等の飲食店のメニューの名前に時々考えさせることがあります。まあ、別に全部の店がそつと言つわけではなく、たまにといつ感じなんですけど。

例えば、レストラン等でたまに見るこんな感じのメニューの名前で考えられることがあります。

『シーフのきまぐれおすすめメニュー ○○のソフト&○種類の季節の野菜○○たっぷりの○○ソースを添えて』

長すぎます。読む方の気持ちも考えてほしいものです。

もし、これが初デートで行った店だとしたらどうでしょうか。いつ言つ名前のメニューのある店は、大抵高級感の漂う感じがします。そこに初デートで行くわけです。男性の緊張は計り知れないものでしょ。女性も緊張するでしょう。

そこにはこの長い名前のメニューが登場です。男性からしてみれば、『なぜこんなひどいことをするのか』と神を恨んでしまうでしょう。そして女性はその様子をじつと見守るしかないのです。

そして沈黙の中、男性はメニューを読み上げるのです。

『シーフのきまぐれおすすめメニュー ○○のソチュー…』

そりや噛んでしまっても仕方ないでしょう。この状況じゃ仕方ないでしょ。お店の方もそこらへんは気に掛けてほしいものです。と言つ前に、『シーフのきまぐれおすすめメニュー』ってなんでしょうか。何で、きまぐれなんですか。そしてそれを、何故おすすめるメニューにしちゃったんでしょうか。そんなんでいいんですか。

でもまあ、料理 자체はおいしいんですけどね。

後、もう一つ僕が気になつてゐるメニューの名前のタイプがあります。それはたまにラーメン屋さんで見るこんな名前のメニューです。

『〇ちゃんラーメン』

これは一見考へさせることが無いように感じられます。でも、このお店の名前が『〇〇軒』とか『〇〇飯店』だつたらどうでしょう。

実は、『〇ちゃんラーメン』の【〇ちゃん】はそのお店の店主の名前の愛称だつたりするんです。大輔さんだつたら大ちゃん、良信さんだつたら良ちゃんという感じですね。

そこで違和感を感じませんか。よく考へてみてください。あなたは、はじめて会つた自分より年上の店主に向かつて『〇ちゃん』と馴れ馴れしく呼ぶことは出来るでしょうか。なかなかの度胸が必要でしょう。

そもそも、愛称といふのは友達とか馴染みの客になつて初めて呼べるものではないでしょうか。

例えば、こんな感じじゃないでしょうか。

「いらっしゃい！ おい、元気ねえじゃねーか、どうしたあ？」

「いや、実は会社で大目玉食らつちゃつてさ。参つちやうよ。ハハ。」

「なんでえ。そんなことか。俺なんて母ちゃんにいつも大目玉食らつちまつてるさ。だつたら俺のラーメン食つて元気だせ。俺のラーメンはスタミナ満点だからな。」

「ハハ。ありがとう大ちゃん。じゃあ、大ちゃんラーメン大盛りで。」

「はいよ。大ちゃんラーメン大盛りーーー！」

いい話ですね。やっぱ僕には○ちゃんは敷居が高すぎます。せめて○さんぐらこにして頂けないでしょ？ お店の配慮を期待しています。

とまあ、散々言つてきましたが、僕自身けつゝう自分の作った料理に名前を付けちゃつたりしています。今田の屋食には『真也スペシャル』とか付けちゃつて。本当恥ずかしいかぎりです。でも付けちゃうんですね何故か。

だから、皆さんもメニューの名前とは上手に付き合つてこきましょうね。

長々とへりくつ失礼しました。また、いつかお会いできたらお会いしましょう。失礼します。

その一 メイナーの名前について思ひ（後書き）

僕のへりくつを御覧頂き有難うござります。評価や感想等頂けたら
有り難いです。

セの2 県の名産品について思うこと

先日、ある方と初めてお話を機会があつたんですが、その時に感じたことをお話ししたいと思います。まあ、その『感じたこと』って言つのはお互いの自己紹介の際のことなんですね。

皆さんは初めて会つた方とどんな話をしますか。実は私は、初めて会つた人と話すつてことがかなり苦手なんです。第一印象を悪くしてしまつ自信は、100%あるつていうくらい苦手なんです。だからその日もはつきりいつて苦痛でしたよ。相手の方は自分よりも2倍近く年上で、地位も断然上で、そのくせ私に対してさん付けで、しかも敬語で話してきて…。これ以上僕を苦しめるんですかって思つちゃいますよね。しかも、相手の方も自分から話さつとしない。ああもう。なんてたちが悪いんでしょう。

だから、必死で話題を探しましたよ。でも思いつかないんですよ。自分の心の引き出しにパンツ一枚すら入つていません。

しばらくの重苦しい沈黙の後、しうがないんで本日2回目の自己紹介をすることにしました。しうがないでしょ、話題がないんだから。

「すいません。改めて挨拶させて頂きます。○○と聞こます。よろしくお願ひします。」

「まあ、『丁寧にありがとう』がこます。『出島はびきにながられるですか。』

おお、まさかの食い付き…この機会を逃すわけにはいきません。

「えつ、あつ、はい。茨城です。」

「ああ、茨城ですか。私は東京なんですよ。いいといひですよね、

茨城つて。」

茨城つて。

「そうですか。でも何にもないですよ。自分が住んでる地域は田舎なんで。

もう、茨城を『いばらき』って呼んぐことなんかこの時ばかりは気にしていられません。流れを乱すわけにはいかないんです。まあ、（）付けで表記しているくらい本当は気にしてるんですが。皆さん、茨城は『いばらき』です。間違えないでくださいね。

「へえ、そうなんですか。水戸のほうとかは私が行つたときには賑わつていたようでしたけどね。」

「水戸は賑わつてていると思いますよ。」

「そうなんですか。そう。茨城ご出身なんですか。つてことは、毎日朝は納豆を召し上がつたりなさるんですか。」

出ました。『茨城人』毎日納豆を食べる人』イメージ。まあ、仕方ないんです。茨城人は納豆と水戸黄門と霞が浦のイメージからの脱却は不可能なんです。それが茨城人としての宿命なんです。嵯峨なんです。

まあ、そう言つている私ですが実際に納豆をよく食べるの、正直にこう答えました。

「ええ、まあ週に3、4回くらいですかね。」

「そうですか。まあそうですか。ねえ。やつぱりねえ。」

なんですか。この満足してます態度丸見えの返答は。これで、この方には『茨城人は納豆大好きな人種』というイメージが完全に付いてしまったことでしょう。

言つておきますけど悪いのは私ではないですよ。強いて言えば、週3で食べたくなる納豆を開発した日本文化が悪いのです。

まあ、だからと言って、納豆がないと私の朝が困ります。これは茨城人としての意見もあり、納豆のある日本文化を愛する日本人

としての意見です。

その後も、その方からこう質問されました。

「朝に納豆はやっぱり基本なんですね。ってことは、おやつは、まだ甘納豆を匂いじ上がるんですか。」

滅多に食べませんよ、はつきり言つて。

と言つたが、甘納豆つてそんなに頻繁に食べるものなのでしょうか。私にとつての甘納豆は、おばあちゃんの家のお茶菓子を入れる箱の中でピーナッツや海苔煎や氷砂糖等と一緒に入っているものというイメージがあります。

そんなどこか懐かしい感じのするものを、茨城人だからといって毎度おやつに食べるのでしょうか。もつと茨城県を主張するのならば、毎度おやつにマックスコーヒーを飲みながら、甘納豆を食べるのでしょうか。そう言われば、そうではないと思いませんか。

第一、県の名産のお菓子がその県民のおやつの定番になつているかと言えば、そうではないと考えられます。

京都の八橋、鎌倉の鳩サブレー、東京の東京バナナ、北海道のジンギスカンキャラメル等のような関係のように、茨城にとつての甘納豆も県民とはある程度の距離をとつたお菓子なのではないでしょうか。

その方は、そんなことを考へている私を尻目に一分ほどお話を続けられまして、東京へとお帰りになりました。

の方は一体私に対して何を話した、わざわざ茨城まで足を運んだのでしょうか。今になって考へても、私にはよく分かりません。

とまあ、ここまで散々言つてきましたが、私自身、小学生の頃は

『北海道の人は毎日カニやイクラを食べられていいなあ』と本氣で羨ましがっていました。

今更になって考えてみれば、そんなわけはないんですけどね。カニやイクラにも旬つてものがありますし。それに、毎日食べてたとしたら北海道の人はどれだけリッチなんだってなりますよね。痛風もひどそうです。

皆さんも県の名産品とはうまく付き合っていきましょう。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたらお会いします
よう。
失礼します。

その2 県の名産品について思うこと（後書き）

御覧頂き有難うござります。評価、感想等を頂けたら非常に嬉しいです。

その3 食べ物の食べ方にについて思うこと

ときどき自分自身に対してもつことなんですが、最近食べ物に対してのチャレンジ精神が薄れてきている気がします。いきなり、こいつは何言ってるんだと思われるかも知れませんが、これは本当に事実なのです。

ここで言うチャレンジ精神とは、いわゆる『この食べ物に合う新たな食べ方の発見』です。

昔からそうなのですが、私はかなりのひねくれもので、人が『〇〇は〇〇だ』と断言するものにはついつい反論したくなっちゃうんです。本当に嫌な性格です。そんなの自分でも十分理解しています。だから、他人からソースや醤油とかを勝手に自分の料理にかけられる少しばかりイラッとするのです。

そもそも、誰がその料理に、例えばエビフライに、誰がエビフライにソースが合うと決めたのでしょうか。タルタルソースや醤油やマヨネーズだって合うし、はつきり言えばそのままだつておいしいわけじゃないですか。

それを、昔からソースが合うと言われているからと何も考えずにソースをかけてしまったり、お弁当に『そんなにいらないだろ』という量のソースを同封してしまっては、近年問題になっている『殻を破れない人間』に通ずるのではないかと思うのでしょうか。

まあ、そんなことを言っている私ですが、何も考えずにとんかつにソースをかけたりしているんですね。全くもつて殻を破れていません。大人になってしまったんですね。嬉しいような、悲しいような。

皆さんも、自分の味を探求してみてください。私もちょいちょいやっています。

ただ、一つだけ助言を。まあ、私の舌で感じたことなんぞ、そんなに信憑性はないとは思いますが。

お刺身にて、マーマレードは結構キツイです。

長々とべつべつ失礼しました。またお会いできたら、お会いします
しょう。
失礼しました。

その3 食べ物の食べ方にについて思うこと（後書き）

御覧頂き有難うございます。評価、感想など頂けると嬉しいです。

その4 桜節のテンションはどこで思ひつけ

最近急に寒くなつてきました。僕は寒いのが嫌いなんで本当にひりひり日々がやつてきてしました。

寒いのが嫌いだからといって、別に暑いのが好きってわけでもありません。暑いのも嫌いです。キッパリと嫌いです。でも、『暑い』よりは『寒い』の方が断然嫌いです。

その違いを僕自身に問うのであれば、それは『テンション』の違いです。

夏の暑さはテンションが上がります。

「暑いーーー、暑いーーーもー暑いーーーあーーー、もー、ちよつと。あーもうやだーーー暑いーーー暑いよーーー暑いよーーー。しかたねえーーーどうか出掛けるかーーー」

これが夏の暑さの時の『テンション』です。
上がつてますね。はい、確かに上がつてますね。完璧に、ほぼ完璧に上がつてますね。

これに比べて冬は盆地じゅう。冬は、夏とは真逆でテンションは下がります。

「寒いーーー。あー寒いーーー。もー寒いーーー。あーーー、もー、ちよつと。あーもうやだ。寒い。寒いよーーー。寒いよーーー。しかたねえ。もうひ寝よ。」

これが冬の寒さの『テンション』です。

下がつてますね。いやあーはー、確かに下がつてますね。完璧に、ほぼ完璧に下がつてますね。といつより、がた落ちですね。夏の暑さの時より長い文章で、かなりのマイナス思考。これは『冬=テン

ション低い時期』にほぼ確定ですね。

皆さんも、これから寒い時期、自分のテンションには『気を遣つ
ていきましょうね。

とりあえず僕は当分の間、自動販売機の『あつたか~い』のコー
ンスープで寒さを防いで、テンションを維持します。まあそういう
ても、僕のいつものテンションは一般の方の文化の日のテンション
とほぼ同じくらいなんですけどね。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたら、お会いしま
しょう。
失礼します。

その4 案籠のトランプについて思うこと（後書き）

御覧頂き有難いござります。評価、感想等頂けると嬉しいです。

その5 大人になる瞬間にについて思うこと

人間とは日々何かと戦い、日々何かを経験し、日々何かを学び、日々何かを得て、日々少しづつ成長していく、未完の生物だと思います。そしてその成長のなかで、人間はいつしか『子供』という範囲から脱却し、『大人』と呼ばれる範囲へと入っていくのです。

すいません。偉そうな書き方をして。別に哲学とかそういうことを言つつもりは全くありません。大丈夫です。ここからいつもの調子に戻ります。

つまり、僕が何を書きたいかというと、大人になるという瞬間はいつなのかということです。

世間では一般的に成人式を大人への通過儀礼としている感じがしています。お酒やタバコをコンビニの裏とか、学校の屋上とかで隠れて楽しむ必要がなくなるのも、この儀礼の後からですから、これも大人になる瞬間の一つであると思います。

でも、僕は大人になるという瞬間はもつと自分の生活に密着しているものだと思います。例えで挙げるなら下のようなものではないでしょうか。

一人で外食することができたとき。

レンタルビデオ店で堂々とカーテンの向こう側に入つて、ちゃんと吟味して選んで、他のビデオでカモフラージュすることなしに、男性店員であろうと女性店員であろうと、なんてことなしに、スムーズに借りることができたとき。

スペゲッティにナポリタンとミートソースの味以外があることを知ったとき。

誕生日の夜を家族以外の人々に祝つてもらつたとき。

学校のトイレで、大きい方をすることに恥ずかしさや罪悪感を感じなくなつたとき。

お寿司を『やつぱり、わざびあつての寿司だよな。』と感じる
ことができたとき。

上野駅で戸惑わず乗り換えたとき。

コーヒーのブラックをおいしく頂けたとき。

パンツをブリーフからトランクスに自分の意志で変える、若しく
は自分の意志でブリーフを履き続けることを決めたとき。

このように、人によつては様々な大人になるという瞬間が存在す
ると思います。

まあ、僕自身が大人なのかといわれれば、多分まだまだ子供な
でしようけど。

少なくとも、上に挙げた大人になる瞬間の2番目と7番目と8番
目はまだ達成できていませんからね。

それでは最後に、もう一つの大人になる瞬間を挙げて、今回のへ
りくつは終わらせて頂きたいと思います。皆さんも自分なりの大人
を目指してみてくださいね。

学校の給食の『ご飯と味噌汁と牛乳の組み合わせに、必要以上の違
和感を感じたとき。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたらお会いしまし
ょう。失礼します。

その5 大人になる瞬間にについて思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価、感想など頂けたら嬉しいです。

その6 進化について思ひ

生物は生き延びて子孫を繁栄させるために、自分達の生活環境に合わせて長い年月をかけて進化をしてきた、というようなことをいつか聞いた記憶がどこかにあります。

と、ということは、私たち人間もいつかは新たな進化をするのでしょうか。ちょっと考えてみましょう。

多分人間が今後大きな進化を遂げるとしたら、やはり地球温暖化

が大きな要因となるのではないでしょうか。

地球温暖化が進むと、地球が暑くなります。そうすると、人間は暑さに負けないような進化を遂げるはずです。暑さに負けない…。だとすると、砂漠に住む生物に似てくるのでしょうか。砂漠に住む哺乳類で、暑さに負けない…。

…ラクダです。やはり、ラクダです。誰が何と言おうと、ラクダです。ラクダのように進化するのではないでしょうか。

でも、それでは困ることがあります。ラクダのように進化したら、多分ルックス的には残念な結果となってしまうでしょう。そしたら、『イケメン』は死語となってしまうでしょう。コンテストも激減することでしょう。

なにより、僕はラクダのように進化したくありません。

また、地球温暖化が進むと、北極だか南極だかの氷が溶けて水面が上昇するみたいな話を聞いたことがあります。そうすると、人間は泳ぎが得意になるように進化を遂げるはずです。泳ぎが得意…。だとすると、海や川に住む生物に似てくるのでしょうか。海や川に住む哺乳類で、泳ぎが得意…。

：カツパです。やはり、カツパです。一瞬クジラとイルカが頭をよぎりましたが、誰が何と言おうと、カツパです。カツパのようにな進化するのではないでしょうか。

でも、それでは困ることがあります。カツパのようにな進化したら、多分キュウリが大好物になるのでしょう。そうなると、食物の自給率が低い日本では、カツパのようにな進化した人間は生活することはできません。

なにより、僕はカツパのようにな進化したくありません。キュウリだってそんなに好きなわけではありません。

それでは、ラクダやカツパのようにな進化しないようにするにはどうしたらしいか。それはやはり地球温暖化を止めるしかありません。皆さんも、地球温暖化についてちょっと考えてみましょうね。

長々とへりくつ失礼しました。またお会いできたら、お会いします。
しょづ。
失礼します。

その6 進化について思つひ（後書き）

御覧頂きありがとうございます。感想や評価を頂けると、とっても嬉しいです。

その7 ダイエットについて思うこと

本当にどうでもいい話なんですが、先日母親がついにバナナを買つてきて、僕にこいつ直進しました。

「お母さん、 今回は本気だからね。」

そうです。ダイエットです。

早朝ジョギング、寒天、納豆、水を入れる軽いダンベル、レゴーディング、ビリー、エドはるみ、鍋、サウナスーツ、ヨガ、家事をしながらでもできる3分くらいのエクササイズ、腹をありえないくらい振動させるベルトみたいな機械、玄米と何種類かの野菜でできたモソモソとした食感のビスケット…。

どれも長続きせず、時には一回試しただけでやめてしまつような母親が、ついに新ダイエットに挑戦です。まあ、多分これも長続きしないような気がしますが。

そもそも、何でここまでダイエットに関するものって爆発的ヒットを飛ばすのでしょうか。

例えで挙げるならば、寒天とか納豆とか今回のバナナですかね。まあ、納豆はあれかも知れませんけど。これらの商品つて、その効能が発見されて、メディアに取り上げられた翌日から突然市場から姿を消しましたよね。まるでオイルショックのときのトライレットペーパーみたいに。

寒天や納豆やバナナがあれよあれよと減つていいく。スーパーの店長さんからしてみればガツツポーズものですよね。

でも、多分寒天からしてみればびっくりですよね。

日頃は多分こんな話をしていたに違いないでしょ。う。

「おい、増えるワカメの坊っちゃん。お前、ここに来てどれくらいになる?」

「えつ、俺ですか? そうですねー。2カ月くらいですかねー。」

「ああ! ? 2カ月? 甘いねえ。まだまだ青! 一才だねえ。」

「ハツ! ? ジャア、偉そうな口きいてるあんたは、ここに来てどれくらいになるんですか!」

「あ? 俺か? そудなあ、俺はー。んー。確か1つてどこかなあ。

「ハ? 1カ月ですか? そんなくせに偉そうな口を叩いてんじゃねえよ!」

「…だよ。」

「ハ? もつと大きい声出さねえと聞こえねえよ! 寒天じじい! ! !

「…年だよ。」

「…えつ? も、もしかしてあんた…。」

「1年だよ。」

「い、1年! ? あつ、あ…。」

「ねえ、増えるワカメのお兄さん。これからどうかよろしくお願ひしますねえ。まずは、そのふてぶてしい態度を『講義願いますかねえ。』

「ひつ…す、すいませんでした! や、やめてください。や…ぎやあー! ! !」

…いやあ。
恐いです。恐すぎます。

多分長年の「」足労が寒天さんをこんなにも変えてしまったのでしよう。

でも、そんな寒天さんにもついに光が射したんです。

そう、あの一大ブームを巻き起こした『寒天ダイエット』です。今までスーパーの隅っこに追いやられていたベテランが、ついに店頭のお立ち台に上り詰めるときが来たんですね。

多分こんな感じの会話がなされていたんでしょう。

「みなさん、おはよつゞやこますー。」の度、「こちらの〇〇スーパーに入店させて頂きました、寒天です！まだ右も左も分からぬ若造ですが、どうぞよろしくお願ひします！」

「ケツ、よしてくれよ寒天さん。あんたみたいなスーパースターが俺等なんかが頭下げないでくださいよ。」

「そ、そんな事言わないで下さい。僕はあなたの活躍に憧れてこの店に入店したんですね。」

「ふつ、よしてくれよ。俺の活躍なんぞ、夏のシーズンで終わりよ。今の時期なんて温麺になるしか能のない、しがないただの素麺よ。」

「そ、そんな…。」

「ふつ、意外そうな顔だなあ。だがなあ坊主。俺は逃げるわけじやあないぜ。来年の夏にはまた主役に返り咲いてみせようじやあねえか。それまでに腕を磨くしかねえんだよ。」

「…」「ケツ、熱く語つちまつたようだなあ。おつと、寒天さんよ。もつこ指名らしいぜ。」

「えつ…、あつ、はい。すいません、お先失礼します。」

「…おい、坊主。」

「あつ、はい。」

「…頑張れよ。」

「あ、ありがとうございますー！素麺さんと話せて、俺、本当に俺、光栄でした！俺、頑張ります！素麺さんみたいに頑張ります！

本当にありがとうございました！

「ふつ、俺も、まだまだ頑張らなくちゃなあ……。」

…いやあ。

渋いです。

渋すぎます。

俺も素麺さんみたいな大人になりたいです。

あれつ、といひでこれつて何の話でしたつけ？

そうそう、ダイエットの話です。

上で紹介したように、寒天さんの立場は劇的に変化しました。それで、今はどうかといえば、皆さん承知の通り、またまた苦労人のベテランさんに逆戻りです。まるで、どこかの一発屋芸人さんみたいな人生ですね。大変な人生です。

そもそも、そんな人生を寒天さんや芸人さん達に味わせていいのでしょうか。

というか、テレビ業界のサイクルは早すぎます。

元々力のある芸人さんなのに、出る番組、出る番組、同じようなネタばっかりやらせて、飽きたらポイですかー？

そりやあ、飽きるでしょうよ。同じようなネタばっかりじゃ。

じゃあ、何ですか？あなた方は、毎晩毎晩ヒレスステーキを召し上がって飽きないのでですかー？

ヒレスステーキは1年に1、2回食べるからこそ、ヒレスステーキなんです。そんな有り難いヒレスステーキを毎晩毎晩召し上がったら、罰が当たりますよ。胃もたれだって起きるでしょう。

だからこそ、ヒレスティークは年に1、2回がベストですし、それくらいが財布にもやさしいんです。

すいません。話がだいぶそれましたね。話を戻します。

つまり、僕が何を言いたいかと言いますと、『一発屋にならないよ』にダイエットを継続して頂きたい』ということなんですね。

寒天は別として、バナナと納豆は、僕にとって好物の1つに分類されます。

それが、ダイエットによつて店頭から消えて、お前ビニのメーカーだよつていう商品までが登場したりするんです。

そんな、ダイエットとは関係なく、好きで食べている人から食物を奪うんですから、そういうたダイエットをなさる方には、是非にでも成功して頂きたいのです。痩せて頂きたいのです。真浦塚真也はダイエットをなさる方を応援します！

えつ？あなたの母親はどうなつたつて？

あー、多分ダメですね。

だつて、食後にバナナを食べてゐるだけですもん。ただのデザートじゃねえかよつてね。どうやら、趣向をあんまり理解していないようです。

皆さんも、自分に合つた健康法を進めていきましょうね。

長々とへりくつ失礼いたしました。またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

そのノーダイエットについて思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その8 「最近の子供は……」について語りたい

最近、やたらめったら聞く言葉。

居酒屋や電車の中、はたまたテレビにむかって、ちょっと疲れ気味の大人们々が、散々愚痴や不満を吐いた後、とりあえずいう言葉。

「最近の子供は……。」

最近の子供は、キレイやすい。

最近の子供は、態度がデカイ。

最近の子供は、礼儀がなってない。

最近の子供は、努力を知らない。

最近の子供は、まともりがない。

最近の子供は……。

まあ、後につづく言葉は悪いことばかりですよね。

でも、どうなんでしょう？

そんなに最近の子供ってダメなんですかね？

もしますけどね。

最近の子供の僕から言わせて頂きますと、そんなに変わらない気

キレイやすいのは今も昔のヤンキーも変わらないだろ？。肩がぶつかっただけで、『お前、何中だよー？』で喧嘩ですよ？・中学関係ないでしょ？、そんな。

礼儀を知らないのは、成人式で大暴れしたり、挨拶をできない今も、卒業式でお礼参りしてた昔もそんなに変わらないだろうし。

まとまりがないのは、学級崩壊しちゃつたり集会にならないくらい喋ってる子供と、保護者会で先生の話を聞かないで芸能人のスキヤンダルの話にはなを咲かせている大人や、テレビの特番なんかで日本の未来について話し合つても、怒鳴りあうだけの討論して、訳の分からぬところで、何でこの討論に参加しているのかよく分からぬ芸人さんが訳の分からぬボケをかまして、なんか皆が爆笑して、司会者が『とにかく頑張るしかないんですね。』なんて勝手にまとめちやつて、2時間ちょっととかけて『頑張りましょう』が答えですか、みたいなことをしている大人ともそんなに変わらないだろうし。

結局のところ、そんなに変わらないんですね。

昔から、ずーっと昔から、『最近の子供は…』なんて言葉は、一種の通過儀礼みたいに存在していた気がするんですね。

だから、どっちもどっちです。

電車内で大声で喋つてる子供も、仕事の電話だからとか言い訳して、電車内で携帯で話している大人もどっちもどっち。

ガムや唾をそこらじゅうに吐く子供も、タバコを歩きながら吸う大人もどっちもどっち。

学校なんか行つても意味ないしつて言って昼間街をふらつく子供も、時代が悪い、社会が悪い、上司が悪いんだと言つて酒に溺れる大人もどっちもどっち。

まだからこそ、どっちもどっちで変わらなくちゃいけないんで

すけどね。

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その8 「最近の予供は……」について懇つゝと（後書き）

御覧頂き有難うござります。感想・評価など頂けたらうれしいです。

その9 サンタをひたすら思つて

12月の

「師走」という時期は何かと忙しい時期で、みんなバタバタしますよね。

中でも、あの方は日も回るくらいの忙しさでしょうね。日本のサンターマンもびつくりなくらいこの労働時間でしょう。

いや、M-1チャンピオンのあの2組じゃないです。そりや、これからバンバンテレビに出るとは思いますが。

いや、ゲーム屋さんや飲食店のアルバイトの人ではないです。そりや、この時期に休ませてくれなんて言つたら、店長に露骨にいやな顔をされるでしょうけど。

サンタですよ。サ・ン・タ。あの、60歳か70歳かのお祝いみたいなの赤い服着て、仙人みたいな白い髭をたくわえた、ふくふくのメタボで、同じくらいふくふく太った袋を担いで、鼻炎なのか酒焼けなのか分からぬけど赤い鼻をしたトナカイをつれた外国のおじいさんですよ。

でも、よく考えるとサンタさんって、かなりのお人好しか偉い人かビルゲイツなみの資産家か、とにかくチャリティー精神あふれた『良いおじいさん』ですよね。

だって、世界中の子供たちの要望を聞き入れて、わざわざ遠くのフィンランドから、トナカイの引いたソリという不便な交通手段で、真夜中の寒い時に、自分の体型も考えずに頑張って煙突から入つて、

靴下というあんなに限られたスペースに上手くプレゼントを入れて、子供の寝顔を見るこどもなく、またすぐに次の現場ですよ。

ノーベル平和賞もんですよ。サンタさんの行為は。

だから、子供たちもサンタさんを尊敬しなくちゃいけないと思します。多少自分が思つていたプレゼントと違つても、目をつけられないで、くちやいけないです。

だつて、日本だけを配つている新聞や手紙やモ配便だつて、間違つて送られてくることがあるんですよ。
だから、世界中の子供たちにプレゼントを配つているサンタがプレゼントを間違つてたつて仕方ないぢゃないです。

これは、あくまで僕の意見です。

これは、あくまでプレゼントを間違つてくばられたことだが2、3回ある僕の意見です。

とにかく、みなさんもクリスマスを楽しく過いでしまじょうね。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その9 カンタセキヒツヒ思ヒルヒ（後書き）

御覧頂き有難いござります。

その10『やの10』元にて思つゝ

早いもので、ついに『ぐらぐらハッシュセイ』も『その10』に突入です。

飽きやすい自分が、こんなに続くとは。

やりました。やってやりましたよ。快挙です。本当に快挙です。カレーうどんの大盛りを男らしく食べて、Tシャツが洗いたてみたいに真っ白だった時ぐらいの達成感です。言い換えれば、カルピスを、甘ったるくもなく、貧乏臭く薄くもなく、ちょっとぞんざい優しい味に作れたみたいなもんでしょ？

自分でも自分を褒めてやりたくなります。だって、誰も褒めてくれないですもん。

だから褒めてあげるんですよ、自分を。

え？

ええ。親バカみたいにめちやくめちやく褒めてやりますよ。こんなふうに。

よしよし。お前えらいなー。よくやったなー。あー、よしよし。かわいいなー。あー、よしよし。よしよしー。

よしよしー。んー。もつとがんばりなよー。あー、よしよし。

良い子だー。あー、よしよし。

気分はまるで、動物を（確かライオンだったかな）可愛がるムツゴロウさんです。

初めてまして、真浦塚ムツゴロウです。

…調子乗りました。すいません。

本当に、これくらいで調子乗っちゃダメですよね。中には連載を100回以上続けている小説家になろうの小説家さんもいますもん

ね。まあ、読んだことないんで、いるかどうかも分からぬけ
ど。

まあ、とにかく。僕が言いたいことは、『ハーバード』です。

これからも、『ハーバードセイ』をよろしくお願いします。

とりあえず今日は、駅で買った、こがしみたらし団子と今まで見
たことがなかつたどつかのメーカーの炭酸飲料で、細々と祝宴を上
げたいと思います。

長々と、べりくつ失礼しました。
またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その10　『その10』について思うこと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価、感想等頂けるとすこしく嬉しいです。

その11 ストレス解消法について思うこと

最近、『現代人はストレスに弱くなつた』とよく聞きます。まあ、そう言つてゐる方自身も、少なからず現代人の分類に入つてゐるので、何とも信憑性に欠ける氣もしますけど。

と言うより、僕が思うに、現代人は、『ストレスに弱くなつた』のではなくて『ストレスを解消できていない』のではないでしょか。まあ、それも現代人の言つてゐることなんで、信憑性は全く無いんですけど。

まあ、とにかく。現代人はストレスの解消法をいち早く見つけなくてはいけないです。信憑性なんてことをウダウダ言つていたら、このエッセイは成り立たないです。『へりくつ』なんですから。ええ。開き直つていきましょう。

ストレスは、いわば心の病です。僕も患者の一人です。ですので、ここからは僕自身のストレス解消法について考えていきたいと思います。

まず、お酒なんてどうでしょ。金曜の夜、これでストレスを解消している方も多いのではないか。気の合つ仲間とビールをグイ。いやあ、いかにも楽しそうです。

…あつ。

無理ですね…。

だつて、僕、お酒はめっちゃ弱いですもん。カルピスサワー2杯で記憶が飛びます。愚痴を吐き出す前に、違つもの吐き出してしまいます。

だから、お酒ではストレス解消はできませんね。

じゃあ、タバコはどうでしょ。ホッと一息、くわえタバコで、ストレスも一緒に煙にまく。なんか、渋くてかつこいいじゃないで

すか。

…あつ。

無理ですね…。

だつて、所詮、煙ですよね。いわば、富士山の空氣の缶詰の、お手軽に手に入るバージョンみたいなもんですよね。僕は、煙に2、300円もかけたくないですし、かけるだけのお金も持ち合わせていません。僕のお財布は、毎年、大不況です。

だから、タバコではストレス解消はできませんね。

うーん。じゃあ、カラオケなんかどうでしょう。田頃のイライラを大声でシャウト。はたまた、泣きのバラードで心をホロリ。いいじゃないですか。楽しそうじゃないですか。

…あつ。

無理ですね…。

だつて、僕、音痴ですもん。そのくせ、採点は大好きですもん。

歌えば歌うほど、心が傷つきます。

だから、カラオケでストレス解消はできませんね。

もうー！じゃあ、何がいいんですか！？はつきりしろよ、男だろ！

喧嘩は？

…いや。痛いの嫌いだし。それに、勝てないし。

じゃあ、スポーツは？ボクシングとかサッカーとか。

…いや。僕、運動音痴だし。

ああ！つたく。じゃあ、万引きとかしてみれば？

…いや。勇気が無い。

…じゃあ、もう仕方がないから、ドラックにでも手を出してみたら？

…いや。幻覚で虫とか見えた…。僕、虫大嫌いだし。

…。

いやあ。

決まりませんね。

自分に對して腹が立つてきますね。ほら、また新たなストレスが発生です。

とりあえず、この場は、ストレスと戦う人の為に開発されたらしいチョコレートでも食べて、なんとか落ち着けつつと思います。

皆さんも、ストレスとは仲良く付き合つてこつて下さいね。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その11 ストレス解消法について思ひり（後書き）

御覧頂もありがとうござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その12 振る飲み物について思うこと

いやあ、うかつにもやせつてしましました。

まさか、この年になつて、やつてしまつとは。人生での経験がまつたく役に立つていませんね。まったく、僕には学習という能力が備わっていないのか。まったくもつて、恥ずかしいかぎりです。

え？何がそんなに恥ずかしかったのですって？

またまたあー。冬の時期に、恥ずかしいことつて言つたら、これが、スケート場で派手に転んだかの、どつちかしかないでしょ。まあ、もうすでに、題名で発表しちゃつてるんですけどね。

そうです。

僕はなんと、粒入りの「ーンスープを、ひともあらひて、振らずに開けてしまつたんです。

ああ、なんという失態。よりもよつて、毎年お世話になつている、「ーンスープでこのよくな不祥事を起こしてしまつとは。

何気なく缶の裏の栄養表示とか保存方法とかが書いてある欄の、『よく振つてお飲みください』を見つけてしまつた時の衝撃というたら。

もうね。ああ、だめだ。言葉に表せません。

でも、そのことに気付いた時には、もう後の祭りです。

一応、振つてみよとは試みますが、蓋が開いてるので、こぼれるんじやないかという恐怖心が頭をよぎり、結局、飲みおわつた後に、缶のお尻を叩いて、コーンを出すというなんとも情けない姿をさらしてしまいました。

しかも、その時も、歯に缶が当たるんじやないかといつ、恐怖心に負けるへたれぶりなんかも披露しちゃつて……。

そんなこんなで、粒入りのコーンの、ツブツブ満足度は45%程度しか味わえませんでした。まあ、普段もどんなに頑張つても、9

5%ぐらいしか味わえないんですけどね。

そもそも、あの『よく振つてお飲みください』の表示って、なんであんなに小さいのですかね。

あんな大事なことを、あんな隅っこに書くことはないと思うんですけど。もっと、全面に出した方がいいと思うんですけどね。

こいつそのこと、以前に入れちゃうとか。例えばこんなふうに。

『フリフリコーンポタージュ 僕達コーンも残さず食べてね』
いいじゃないですか。分かりやすくして。子供受けもいいんじゃないですか？

『振つて二の腕もお腹もすつきり！ 飲むヨーグルト カロリー

1／2 カルシウム増量中』

いいじゃないですか。ダイエット効果も期待できそうですよ。あつ、でもちよつと長すぎますよね。

『振つて、テンションもも中身もアゲアゲ！ ○○サイダー』
いいじゃないですか。ノリがよくて。若者には受けそうです。
あつ、振つたら、中身は空っぽになっちゃいますね。確かにアゲア
ゲですけど。

うーん。そう考えると、題名だけに任せるのは難しいですね。

じゃあ、『よく振つてお飲みください』を見忘れたときのフォローを入れてみるとのはどうでしょう。そうすれば、『あー！ 振るの忘れた…』といつ、テンションの下がり方を経験しなくても済みますもんね。

例えば、野菜ジュースのラベルの表示を、こんな感じにしてみた
らどうでしょうか。

『本製品は、よく振ってお飲みください。』

ただ、この「よく振ってお飲みください」ですが、これはあくまで、我が社の開発チームがよく振って飲んだほうが、味が均一になつておいしいのではないかと考慮して、表記をさせて頂きました。そのため、お客様が振らないでお飲みになつたからといって、その行為が間違いというわけでは決してありません。むしろ、振らない方が、前半は薄味ですっきりと、後半は濃厚な野菜の風味を味わうという、2通りが楽しむこともできます。我が社の社員の中にも、その飲み方をしている者もおります。

ですから、振ってお飲みになるか、振らないでお飲みになるかは、お客様さまの「自由でお楽しみください。』

まあ、ここまで書けば、振らないで飲んだとしても別にテンションも下がることはないでしょう。

ただ、自分で書いといてなんですが、この無駄に長い文章は一体どのスペースに表記できるんでしょうか？もし一字も抜かさないで表記するのしたら、業務用のプラスチック容器が、一升瓶スタイルじゃないと、まず無理でしょうね。

うーん。それじゃあ今まが、もしかしたら一番ベストなのかも知れませんね。あれ？結局、解決できませんでしたね。

皆さんも、振る飲み物とは仲良く共存していきましょうね。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その12 振る飲み物について思つゝと（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想等頂けると、嬉しいです。

その1-3 趣味について思つ」と

最近、『あなたの趣味は?』という質問をよくされるようになりました。そこでいつも、僕は、自分自身の趣味って、一体なんなんだろうなあーと考えてしまいます。

じついう質問って、答えようによつては、相手に与える印象も変わるように感じます。なるべくなら、相手に良い印象を与えていい。そう考えてしまつ、する賢い自分も、ちょっとびり存在してしまいます。では、じついたことを、『僕の趣味です』と答へればいいんでしょうか。ちょっと考えてみたいと思います。

例えば、僕が考える良い印象を与える趣味としては、サーフィンがあります。爽やかに汗を流しながら、真夏の海で、格好良く波に乗る。波。日焼けした筋肉質の肌。太陽。砂浜。カーペラソル。海の家。焼きそば。かき氷。ん~。どれをとっても格好良い。まさにパーフェクト趣味、キングオブ趣味ですね。趣味の中の趣味、出てきましたね。

じゃあ、これを自分の趣味に置き換えてと。

いや、いやいやいや。無理です。あー、無理です。だって、僕、肌が真っ白ですもん。ネギみたいですよん。これで、趣味とか言つたら…。

質問人（以下質）

「あなたの趣味はなんですか?」

真浦塚（以下真）

「はい。僕の趣味は、サーフィンです。」

質

「…えつとー。家ですか。」

真

「えつとー。家です。」

質

「は？」

真質 「家ですか。」

「あつ、もしかして、丘サーファーですか？」

真質 「いえ、家サーファーです。」

真質 「い、家サーファーですか？」

真質 「はい。家サーファーです。」

真質 「あつ。だから、肌が真っ白なんですね。」

真質 「そうです。」

真質 「……へえー。なるほどねー。」

「ごめんなさい。

ここまで書いといてなんですが、多分『どこからへんで泳いでいる
んですか。』で心が折れると思います。『ごめんなさい。嘘です。
』と言ってしまうと思います。

やっぱり、自分に嘘をつくのはいけませんね。人間、やっぱり正
直者が一番です。趣味も正直に言ひ切らいましょう。例えばこんな
ふうに。

真質 「あなたの趣味はなんですか？」

真質 「はい。僕の趣味は、執筆作業です。」

「えつ？執筆作業ですか？」

真 「はい。携帯サイトで執筆作業をしています。」

質 「なるほど。どのようなものを執筆しているんですか？」

真 「へっくつです。」

質 「は？」

真 「は？」

質 「へっくつです。へっくつHシセイです。」

真 「へ、へっくつHシセイですか？」

真 「はい。そうです。」

質 「へっくつです。へっくつHシセイです。」

真 「…えつと、それはどういったものですか？」

質 「ですから、へっくつのHシセイです。」

真 「えつと。つまり、へっくつに對してのHシセイって何ですか？」

質 「いえ。物事に對してへっくつをHシセイです。」

真 「あつ、じやあ、へっくつのHシセイとこいつ、へっくつに對してのHシセイって何ですか？」

質 「でも、あなた、やっぱへっくつのHシセイですか』って聞こませ

んでしたっけ?」

「言いました。」

「じゃあ、あなたはわざわざ、間違つたつひとですか?」

「いえ。僕が言つた『へりくつのH・セイ』は、限りなく『へりくつによるH・セイ』にちかいで『へりくつのH・セイ』です。」

「それってへりくつですか?」

「そうですね。」

「…。」

「ごめんなさい。」

「俺、そんなにひねくれてないです。自分でも分かつてましたよ。かなり無理があると。趣味でこんなに印象を悪くする必要はない」と。

うーん。

案外、趣味つて難しいですね。やつぱり、無難に読書と映画観賞にしておきます。あつ、書いておきますけど、本はちゃんと書店に行つて買つているし、映画はちゃんと映画館に行って観ていますからね。だから、頼みますから、真浦塚真也は引きこもりの根暗野郎だなんて思わないでくださいね。

皆さんも、自分の趣味を楽しんでくださいね。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。う。

失礼します。

その1-3 趣味について思つゝと（後書き）

御覧頂き有難うござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その14 血液型について思うこと

「A型なのに、雑だねえ。」

最近、よくこういった言葉をかけられます。

最近流行つてますよね、血液型での人間性。もうその人気といつたら、数年前のポケットサイズのモンスターぐらいなもんですよ。どこの本屋さんに行つても、大抵この関連の本は置いてありますし、テレビでもたくさん取り上げられたりしています。

でも、この血液型での人間性って、どれくらい信憑性があるんですかね。今回は、僕自身がA型ですので、A型の人間性について考えてみたいと思います。

まず、大雑把に考えてみると、日本人の4分の1はA型ということになるんですね。ということは、日本人の4分の1が几帳面で、慎重つてことになるんですね。

あれ？でも、それつておかしくないですか？

だつたら、日本つてもつと綺麗になつてますよね。だつて4分の1がA型なんですよ。もし、ほかの4分の3が「ミ」とかポイツとしても、A型の人間性でチャツチャツと掃除できるんじゃないですかね。そしたら日本は、もつと綺麗で、衛生的で、外国人に『オオ一、二ホンッテ、キレイデスネエー、ワガクニデモミナライタイヂース。』とかなると思うんですけど。まあ、それにはA型の人間性プラス思いやりの心もいるとは思いますが。

また、話は変わりますが、某有名な血液型の説明書には、A型の人間性についてこう書かれています。

『石橋を叩きすぎて割る』

いや、いやいやいや。

石橋を叩きすぎて割るつて…。
もう一辺よく考えてみましょー。

⋮。

うーん。やつぱりおかしいですって。

だって、石橋ですよ。石でできた橋ですよ。いわば、コンクリートですよ。

割れるわけないでしょ。いくらA型だからって。

叩きすぎて割れるつて、どれだけの欠陥工事ですか。多分あれですよね。この石橋を作った人つて、多分典型的なB型気質な人ですね。

それとも、割った人がかなりの剛力とか。いやいや、ありえないつて。真浦塚くん、アニメの見すぎですよって。

まあ、とにかく、石橋はそう簡単に割ることができるものでもありますせんって。

と、まあ、ぐだぐだと書いてきましたが、このように考えてくると、血液型での人間性って、そんなにあてにならないのかも知れませんね。

だから、皆さんも軽い気持ちで血液型での人間性を参考にしてみてはいかがでしょうか。

とりあえず僕は、いつも通りの、神経質で、そのくせやることは雑で、自己中心的思考で、へんなところが綺麗好きで、頑固で、おらかで、たまに天才肌を感じさせる、そんな男になつてやるひつと思います。目指せ、全DNA制覇！

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしましょー。
失礼します。

その14 血液型について思ひ（後書き）

御覧頂き有難いござります。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その15 映画館のポップコーンについて思ひつい

最近映画を観る機会があつたので、全力で楽しみました。

爆発とか、格ゲーみたいなアクションとか、ギャグ漫画みたいな「メテイーとか、ドキュメンタリーみたいな感動とかを、あの大画面で、『さあ、見て御覧なさい。』みたいに観ることができ。いやあ、人間ってのはすごいもんを作ったもんです。

でも、そこでちょっと疑問に思ったことがあるんです。そう。題名に書いたとおり、『ポップコーン』です。

映画館とポップコーン。

誰も疑問に思わない、映画館では当たり前の組み合せです。いわば、『ご飯と味噌汁、アリとキリギ里斯、リアクション芸人とおでん、熊と鮭、ビールと枝豆、昔話の『太郎』と本当にお人好しの老夫婦』と同じく、よくある、本当によくある、普通の、ごく普通の、『やっぱり、お前どじやなきやだめなんだ。』みたいな、最強の組み合わせ、らしさですよね。

でも、僕が思うに、映画館とポップコーンってそんなに合つませんですかね？

だって、よく考えてください。ポップコーンですよ。食べると『サクッ』と音がして、ほんのひとつ指に塙が残る、あのポップコーンですよ。

あのー、映画って、『他のお客さまの』迷惑になりますので、上映中のおしゃべりは『遠慮ください。』じゃないですか。だったら、ポップコーンの『サクッ』って音は、もう致命傷じゃないですか。えつ？ そんな小さい音なら気にならないって？

いやいや、いやいやいやいや。

だって、電車内で携帯いじつてるだけで、サラリーマンとかOさんとかにいやな顔されるときがあるんですよ。携帯のボタンを押す音でさえ気にする人がいるんですよ。まあ、もしかしたら、『携

蒂ばつかりいじつてんじやねえーよ、最近のガキがあ。』的なことかも知れませんが。だったら、僕、まずいですね。だって今、電車内ですもん。と、話がそれましたが。つまり、人によつては、ポップコーンの音はまずいと思ひます。上映中にそんな音をさせたら、キレる人もいるかも知れませんね。0・2%くらい。

えつ？じゃあ、上映前に食べりや良いだろつて？

いやいや、いやいやいやいや。

だつて、今のポップコーンつて、ミーのポリバケツみたいな量入つてませんか。そんなの一気に食べたら、お腹壊しちゃいますよ。ラストの良いところに、トイレに直行ですよ。まあ、運気は上がりそうですけど。別な意味で。

だから、映画館ではポップコーン以外の食品を推してみるのはどうでしょう。例えば、濡れ煎餅とか。湿氣た煎餅とか。お茶に浸した煎餅とか。雨に濡れた煎餅とか。根っからのなよなよ煎餅とか。温泉煎餅とか。

…。

と・に・か・ぐ。皆さんも、映画館に合つ食品で映画を楽しんでみてはいかがでしょうか。ちなみに、僕のおすすめは、映画館では何も食べないことです。

長々とへりくつ失礼しました。
またお会いできたら、お会いしましょ。う。
失礼します。

その15 映画館のポップホールにて思ひ(後書き)

御覧頂き有難いござります。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その16 電車内のアナウンスについて思うこと

「の前久しぶりに電車に乗つたら、強風の影響で、小一時間も遅れが生じました。まったくもつての不運です。アンラッキーです。でも僕、その日は正座ランキンギ、堂々の1位だったんですよ。しかも仕事運と恋愛運がMAXの。なのに朝のしようとばなに、電車の遅れつて…。お笑いでも、笑いが起きないくらいのベタですよ。いや、強いて言えばベツタベタですよ。ハチミツたっぷりのパンケーキを食べた後の、幼稚園児のほつぺたぐらのベツタベタ感ですよ。まあ、電車内で携帯小説書けるくらい、電車さんと濃密な時間を過ごしたつてことから言えば、仕事運と恋愛運には恵まれてるってことですかね。はい、自他共に認める負け惜しみです。とまあ、そんな中で僕が感じたのは、題名にあるとおり、『電車内のアナウンス』についてです。

電車内で流れる英語のアナウンスって妙にテンション高すぎやしませんか？

今回、僕が言いたいことはこうことです。

前にも書いたとおり、僕が乗った電車は、強風の影響で小一時間遅れたわけです。ということは、電車のアナウンスからは駅員さんの謝罪の声が流れるわけです。つまりは、いつもふつこ。

『次は終点〇〇です。この電車は〇〇・〇〇駅間での強風の影響で、〇〇分ほど遅れが出ております。本日は、お急ぎの方に大変な迷惑をお掛けしました。申し訳ございませんでした。』

まあ、こう駅員さんに言われると、まあ仕方ないかな、って気になるんです。僕の機嫌がいい時なんかは、駅員さんが悪いんじゃな

いや、悪いのは風と風なんかに負けちゃう電車だ、だから、駅員さんは謝る必要なんてないさ、なんて考え方もあります。まあ、謝罪の声の半分くらいは、駅員のオリジナル訛りで何て言つてるかよく分からないですけど。

しかし！そんな気分になつたとき、あの、声が電車内に響き渡るのです。あの、若干陽気な、若者みたいな、手にフライドチキンとウイスキーを持つぐらこの陽気さではないとはしても、ホットドッグとコーラくらいは持つてそうな、あの声。

『センキュー、ア、トライベーリングなんぢやらアゲイン！』

「おい。明るすぎるだろ？ て言つか、謝罪の言葉もないんかい。

ほら、ね。

なんか、若干イラッときませんか。なんだこいつとか思いませんか。『そんなどこりで落ち込んでないで、こっちで一緒に、サラocabさんお手製のラズベリーパイでも食べないか。』みたいなテンションはなんだと思いませんか。

えつ？思わない？

いや、いやいやいやいや。

思いますって。絶対に思いますって。

だつて、言わば、一回謝つてたんだから別にいいでしょ思考ですよ。牛肉の賞味期限偽装で捕まつた会社の社長が、『本当に申し訳ござりません。明日からは豚肉専門店として頑張ります。』とか言つてるようなもんですよ。『パンが食べられないなら、クッキーを食べればいいじゃない。』と何ら代わりはないでしょ。つまり、ちょっとイラッときたでしょ。電車のアナウンスと真浦塚真也のメンドクサイへりくつ。元々

いいんです。それでいいんです。だつて、へりくつなんですもん。とか書いておきながら、実際、僕の心はナイーブハート。いやあ、

本当に申し訳ございません。メンドクサイ人間で。

とまあ、散々話はそれましたが、つまり僕の提案としては、英語のアナウンスをなんか謝罪しなくちゃいけない時は、別の特別ローテーションバージョンを流すべきではないかということです。それができなきや、電車一両に対して、演技に覚えのある英語をしゃべれる人を一緒に乗車させるとか。

まあ、とにかく皆さんも電車と仲良くしてみてはいかがでしょうか。結構いいもんですよ、電車つて。

長々とへりくつ失礼しました。
またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その16 電車内のアカウントについて思ひる（後書き）

御覧いただき有難いござります。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その17 テレビの観客席のリアクションについて思つ」と

ずっと前から気になっていたんですが、テレビ番組の観客席のリアクションって、何であんなに揃っているんでしょうか。お笑い芸人が一発芸をやつたら湧き出たように笑いが起こり、激安商品が発表されたら『ええー。安いーーー!』みたいな歓声が起こり、悲惨な事件や感動するドキュメンタリーではまるで不毛な大地のように静まり返り、冒頭で『子供のころに離婚して離れ離れになった父親に会いたい』みたいな題名を散々流したにもかかわらず、再現VRで『なんと借金が原因で両親が離婚してしまったんです』というナレーションが流れただんに、『そんな・・・』とか『ええー!』みたいな悲しさを表現している、あの観客席のリアクションは、何故そこまで歩調を合わせることができるのでしょうか。

一般的に考えてみたら、すべての歩調が合つのつて、なんとも不思議な気がします。だって、人間って一人ひとり違うわけじゃないですか。十人十色なわけじゃないですか。いろいろな感情を持つているからこそ、人間つていうのは、笑ったり、努力したり、人を愛したりできるのではないか。なんか、すごいいいことを言つたような気がします。でも、この話には関係ないので、『真浦塚真也つてすごくね?』という感情はそつと僕の胸にしまつておきます。

つまり僕が言いたいのは、『リアクションがあんなに揃うのはおかしい』ということです。いくら、『番組を心から楽しみたい』という意識を観客席のお客さんが全員持っていたとしても、リアクションが全部揃つことはありえないと感じます。だって、『日本を心からいい国にしたい』という意識を全員が持つて集まつている国会でも、大臣の方の発言に対するリアクションはバラバラですからね。中には寝たふりをして、『私はあなたの発言に対してなんかリアクションをとりませんよ』という高等なりアクションを取る議員の方

がいるとかいないとか。

そんな、人によつてバラバラなリアクションが、テレビの中ではキツチリと、本当にキツチリと、日本のお人形の前髪みたいにキツチリと揃つてゐるんです。それは何故か。考えられる理由はたつた一つしか存在しません。

そう、観客席に座つているお密さんは、プロのリアクション集団だということです。もしくはセミプロ。それか、日頃からリアクションを研究している、なんかそんな感じの、リアクションの好きな一般の、すごい方たちみたいな、まあそういう雰囲気の人たち、みたいな。

もうそれしか考えられません。いや、8割がたそうでしょう。多分、テレビには映らない裏側ではこんな会話がされているに違ありません。

番組スタッフ

「はい。テーラーチェンジしますのでいつたん休憩に入ります。」

「やがてようやく、おまつりの日が来ました。」

B

「だよね。こうやって芸能人を見れるなんて夢見たいよね。」

A

「本道。今田甚助をヒツヅクしておぬしのへだて。」

あ

A あなたたち
B セン といいかしら

「えつ？」

「な、何ですか？」

C

「せりあのあなたたちの行動を、私にちやんと説明してほしいんだけど。」

A

「せりあなの？」

B

「えつ？私たち何かしましたっけ？」

C

「は？…とぼけるんじゃないわよー。」

D

「ちゅうと、こ止めなさこよ。」

C

「何言つてゐるのよー！」の子達がしたことあなた黙つてゐつてこの子の！？Dせりの子達の行動を許せぬつてこいつのー。？」

D

「違ひわよ。許す許せないじやなくて…。」

C

「もうー！Dせりちゅつと黙つてーあなたたちが分からないつて言つなら、私から言つてあげるわ。」

A B

「は、はあ。」

C

「あなたたち、さつきお笑い芸人の○ が出てきた時、『キャー』つて歓声をあげたわよね。」

A B

「えつ？あつ、はい。」

C

「なんであるなことあるの？。」

A

「なんであって…。」

B

「だつて、私もAも○の大ファンだし…。」

A

「それに出てきて早々、ネタをやつてくれたし。」

B

「ね。あのネタ面白いもんね！」

A

「そう！私、何回見ても笑っちゃうもん。この前出したDVDも本当に面白いし。」

B

「えっ？ Aもつ買つたの！？いいなあ、今度私にも見せてよ。」

A

「いいよ。一緒に見よつ。」

B

「本当ー！？やつたあ。」

C

「ちょっと、あなたたちー私の話聞いてるのー。」

A B

「…すいません。」

C

「まったく…。」

A

「で、でも、なんで に『キャー』って言つたりやいけないんですか？」

B

「そ、そうですよ。私たち、ファンなんだから歓声をあげるのは当たり前じゃないですか。」

C

「あなたたち、本当に何にも分かつてないのね。」

A B

「あなたたち、本当に何にも分かつてないのね。」

C 「えつ？」

「いい？」は『イケメン界のスペシャルゲスト』として登場した
のよ。イケメンよ。イ・ケ・メン。はどう？イケメン？イケ
メンじゃないでしょ。全然イケメンじゃないでしょ。つまり、
は『イケメン界のスペシャルゲスト』ではないわよね？

じゃあ、私たちはどういうリアクションをすればいいか分かるで
しょ？そう、『沈黙』よ。沈黙すればいいの。そしたらどうなる？
一回考えてみる？じゃあ、やってみるわね。

ハイ！司会のが『なんと！今日はあのイケメンが会場にきて
くれました！』と言いました。

ハイ！私たちのリアクション！『オオー！…』

が『でわ、登場していただきましょーーイケメン界のスペシ
ヤルゲストです！』と言いました。ドラマロールが流れました。観
客席で私たちがざわめきます。

そして、スポットライトを浴びて　　が登場しました。ハイ！こ
こで『沈黙』！

がテンパります。必死に顔芸をします。ハイ！まだまだ『沈
黙』！

そこには　　がやつてきて、　　に『俺の番組で何してくれてんね
ん！』っとツッコミました。ハイ！ここで観客席が大爆笑！

A B

「…。」

C

「どうーっ！これが正解でしょ！？これで　　も　　どっちもおいし
いじゃない。テレビの向こうで見ている人たちには、どっちも面白
く見えるじゃない。」

A

「は、はあ。」

C

「ね？いわゆるこれが、私たちのリアクションの効果よ。なのに、あなたたちときたら…。」

A B

「…すいません。」

C

「いいのよ、もう。私も熱くなりすぎちゃったから。だけど、公開収録っていうのは、演者と番組スタッフと観客席の私たちが一丸となつて、初めて存在するものなの。だから、私たち観客席も番組には精一杯協力しなくちゃならないの。

確かに。確かに、は今人気があるわよ。私だって好きよ。ネタだつてしつかりしてるし、べしゃりもなかなかイケるしね。でもね、今この番組のなかでは、は、にイジラレて初めて輝く存在なの。別に、に腕がないって言つているわけじゃないのよ。むしろ、その逆よ。腕があるからこそ、との絡みが実現できるのよ。確かに。確かに、そうよ。あなたたちが、を応援したいって気持ちも分かるの。でもね、この絡みっていうのも、には今後の為には絶対に必要になつてくるものなのよ。だから、あなたたちが本当に、の大ファンだつていうのなら、今日は心を鬼にして、に接してほしいの。それが、の為にも、あなたたちの為にもなるんだから。」

A B

「…はい。」

D

「ほ、ほら、こもついいでしょ。もうテープチョンジも終わるみた
いよ。」

C

「あっ、本当ね。それじゃあ、あなたたち。後半もリアクション頑張りましょうね！…それじゃあ、失礼するわ。」

A B

「…。」

いやあ…。

面倒臭いですね。本当に面倒臭いですね。
だって、書いている僕が面倒臭いですもん。AとかBとか、英語
の全角を使うのが本当に面倒臭い。まあ、なら使うなって話ですけ
ど。

まあ、なにはともあれ、観客席でこんな会話がなされているとし
たら、僕が観客席に座ることは一度ないんでしょう。まあ、いく
ら応募しても観覧者に当選したことは一度もないんですけどね。
やっぱり、僕には家の茶の間でゴロゴロしながらテレビを見るの
が性にあつてゐるようです。

皆さんも、テレビは気軽に見てはいががでしようか。テレビって、
なかなか面白いものですよ。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたら、お会いしまじょう。
失礼します。

その17 テレビの観客席のコアクションについて語り（後書き）

御覧頂きありがとうございます。評価・感想など頂けると嬉しいです。

その18 栄養についての「うたい文句」について想つこと

ふと気付いたことなのですが、飲料水のパッケージに書かれているうたい文句に、ついつい心を引かれている自分が心の中にちょいちょい登場してくるようになりました。やっぱり健康に気を遣うようには僕の心が叫んでいるのですかね。全く心配性なんだから。まあそこが愛くるしいんですけどね。おっとこれ以上言つていると、自分大好き人間と勘違いされるんでもこじらで自粲しておきます。

でも、本当に最近増えましたよね、健康を匂わすうたい文句。なんなんでしょう、やっぱり健康ブームってやつなんですかね。ただ、僕はちょっと最近このうたい文句に、疑問を持ちはじめているんです。

例えば、野菜を使った飲料水のパッケージに書かれているこのうたい文句。

『「これ一本で一日に必要な野菜を全部取れます!』

「これすぐじゃないですか!？」たった一本で一日に必要な野菜を全部取れるんですよ。どんどん野菜入ってるんだよってことじゃないですか。

でもそいつすると、もしハンバーガと一緒に食べたらどうなるんでしょう。

だってその野菜を使った飲料水で、もう一日に必要な野菜を全部取れたわけじゃないですか。そしたら、ハンバーガの中に入っているレタスとかトマトの立場はどうなるんでしょう。やっぱり栄養素としては体には取り込まれないんでしょうか。それとも、そこはレタスやトマトを気遣つて野菜を使った飲料水が9割程度の力しか発揮しないんでしょうか。

うーん。どうなんでしょう。でも多分僕たちの体の中ではほぼ毎

田、じゅうじつた葛藤がなされているんでしょう。なんかそれも野菜に気を遣わせて悪い気もしますが。

やっぱりバランスの取れた食事が体にも栄養素の方々にも一番やさしいんですかね。

皆さんもバランスの取れた食事で健康に気をつけてみたらいかがでしょうか。やっぱり食事つていいもんですよ。

それでは最後に僕が抱えている疑問をもう一つ発表して、今回は失礼させていただきます。

『「これ一本でレモン〇〇〇個のビタミン」』って商品を、飲み過ぎて『ビタミン過剰摂取症候群』とか『スーパー・オーバ・ビタミン』とか『ビタミンインボディ』みたいな意味分からぬ病気にかかるたりしないんでしょうか？

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その18 栄養についての「たに文句」について思ひ（後書き）

御覧頂き有難いござります。評価・感想など頂けたら嬉しいです。

その19 ハリネズミについて思うこと

最近、僕はどうしても疑問を持つてることがいるんです。まあ、題名で思いつきり言つちやつているんですけどね。

そうです。僕が疑問を持っていることは、あの『ハリネズミ』についての事柄なんです。

ハリネズミはどうやって寝返りを打つているのか、と。

多分皆さんも人生の中で一回くらいは気になったことがあると思うます、この疑問に。

だってハリネズミって、名前の通り、『ハリ』の生えた『ネズミ』な訳じやないです。

そのネズミが寝るわけですよ。寝返りを打つわけですよ。ほら想像できたでしょ、ハリが地面に刺さつてまるで浮いているように見えるハリネズミの姿が。

でも、今まで生きてきて、『ハリネズミ』のハリが地面に刺さつて動けなくなってしまった。みたいなことを一回も聞いたことがないわけです。

ということは、もしかしたらハリネズミの『ハリ』は硬くない、もしかしたら『ハリ』ではないのではなうか。

そこで僕は散々考えた挙げ句、ある仮説を立ててみました。

ハリネズミは背中の毛、つまり『背毛』が尋常な生え方をした毛深い生物で、それにワックスをつけてお洒落にきめている、カリスマ生物ではないだろうか、と。

こう考へると、ハリネズミのハリが地面に刺さるなんてことはないと考へられます。だって、寝るときにはシャンプーしてリンスし

てドライヤーで乾かしてしまつたのだから、ハリはせりせりハリになつているはずですからね。

よし！これで僕の疑問は解決しました。やっぱりへりくつは何にでも通用するらしいです。

皆さんも、日頃の困難や問題に、へりくつで挑んでみたらいかがでしょうか。もしかしたら、知らず知らずの内に自分の物差しで考えてしまっているだけなのかも知れませんよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その19 ハリネズミについて思つゝ（後書き）

御覧頂き有難うござります。評価・感想など頂けたら嬉しいです。

いやあなんだかんだで、この『へりくつHACKセイ』もついに20回の更新に至りました。これも、皆さんに僕なんかが書いたこの作品を読んでくれて、さらには感想・評価をしてくれているおかげです。本当に有難うござります。

そこで、今回お礼ということ、僕が密かに感じている野望をお話させて頂こうと思います。『えつ？ 野望なんて聞かされても…。それがお礼って…。』と思った方、それは本当に申し訳ありません。だけど…まあ…へりくつなんで…。そこはあえてスルーでいきましょ。

それでは、発表させて頂きます。僕の野望は…

『僕のへりくつを、いつか世界の理屈にする。』

これです。これが僕の野望です。へりくつをいつか理屈にする。なんてスケールの大きな話なんでしょう。多分無理でしょうね、自分で言つておいてなんですが。でも、野望ですからね。まあ、これくらい言わせて頂いてもバチは当たらないでしょう。

でも歴史的に見ると、こいつたことは頻繁に起つてきたように考えられます。例えば、某有名な『地球は丸い』と言つたあの学者さん。あの時代にもしも僕が存在していたとしたら、『なーに言つてるんだ。へりくつばかり言いやがつて。研究ばかりしてるから頭がおかしくなっちゃったんじゃないか。』と、自分のへりくつ具合を棚に上げて、ボロクソに言つてしまいそうです。でも、今ではその理論が世界の常識。いやあ某有名な学者さん、あんたは偉い！ これこそ、へりくつが理論に変わつたいい例でしょう。

だから、僕も最終的にはここを指していくと思ひます。ただ、時間はメチャクチャかかりそうです。でも、こいんです。あのピカ

ソだつて死んだ後に評価され、絶賛されたんです。僕だつてもしかしたら遅咲きタイプなのかも知れませんからね。もしかしたら何十年か先には、季節が与えるテンションの理論が学会で報告されたり、ハリネズミがリンスをしている瞬間がテレビで放映されているかもしませんよ。

と、まあ長々と書き綴つてきましたが、僕が最終的に言いたいことは、これからもへりくつエッセイをよりしくお願ひしますということです。

長々とへりくつ失礼いたしました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その20 20回記念にて思ひる（後書き）

御覧頂き有難いござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その21 映画の宣伝文句について思つて

突然ですが、皆さんは映画を観る基準ってどうやって決めていますか。友達から勧められてでしょうか。それとも、雑誌での紹介ででしょうか。

いや、多分皆さんも僕と同じように、テレビや映画の冒頭で流れる宣伝映像で決めているんじゃないでしょうか。まあ『僕と同じよう』って言う表現をするほど真浦塙真也はそんなに偉くはないんですけど。ただこの映画の宣伝映像、中にはちょっと観るのをためらう場合もあつたりするんです。例えば、こんな宣伝文句。

「全米が泣いた！あの最高のラブストーリーがついに日本上陸！」

最近よく目にしますよね、『〇〇が泣いた』っていう表現方法。世界が泣いた、日本中が泣いた、100万人が泣いた…。と、まあこんな感じでしょうか。いやあ、泣いてますね。泣きすぎですね。こんななんじゃ温暖化以前に海面が人の涙で上昇してしまったそうです。いや、今はそんなことはどうでもいいんです。いや、本当はどうでもいいことなんかではないんですけど。ちゃんと環境のことは考えなければいけないんですけどね。

話を戻します。つまり僕が言いたいのは、この『〇〇が泣いた』って表現方法が、僕がその映画を観るのをためらつてしまつ的原因になつてているということなんです。なぜなら、もしも僕が泣かなかつたらどうしようかと考えてしまつからです。

だつて、日本中が、全米が、世界が泣いているわけなんですよ。感動の嵐が吹き荒れているわけですよ。そんな状況で、もしも僕の瞳から一滴の涙も出なかつたら、『ああ、僕はなんて非情な人間なんだ。』って考えてしまうわけなんです。いや、これが笑いだつた

らしいですよ。『全米が笑つた!』とかだったら、『やつぱり、笑いのセンスはお国柄なんだなあ。』って自分自身を無理矢理納得させることができますから。でも、涙つていうのは…。万国共通だらうし…。まあ、ウミガメはちょっと違つかもしれないけど…。

とまあ、長々と書き綴つてきましたが、映画配給会社さんにもそういうことにも気を配つてくれたらなあと考えています。って、『氣を配つてくれたなら』って言えるほど真浦塚真也は大物ではないんですけど。

それでは、最後に映画の宣伝文句あるあるを一つ発表して、今回のへりくつは終了したいと思います。

皆さんも、映画の宣伝をよく見てみたりかがでしちゃうか。結構宣伝だけでも楽しめたりするもんですよ。

『初日来場者数二〇・一!』ばっかりを売りにする映画の宣伝を見ると、『この映画、二日目以降大丈夫かだったのなあ。』と親心なみに心配してしまひ。

長々とへりくつ失礼いたしました。

またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その21 映画の宣伝文句について思ひ(後書き)

御覧頂き有難うござります。評価・感想等頂けたら嬉しいです。

その22 ワニやモグラを叩いて得点を競うゲームについて想つ

先日、久しぶりにゲームセンターに出掛けたのですが、そこであるゲームに出会いました。まあ、ここでは名前を出すのはあれなので、『ワニ』が四方八方から出てきて、そのワニを叩いて得点を競うゲーム』とでもしておきたいと思います。

その『ワニ』が四方八方から出てきて、そのワニを叩いて得点を競うゲーム』を見た瞬間、ある疑問が頭をよぎったんです。皆さんも多分、いや絶対に一度は考えたことのある疑問だと思います。

なぜ、『ワニ』なのかと。

ほら、考えたことがあるでしょ、この疑問。僕はいつも考えてしまつんです。この『ワニ』が四方八方から出てきて、そのワニを叩いて得点を競うゲーム』を見るたびに。

だって、『ワニ』ですよ。あの牙がたくさん生えていて、4本足で歩く、恐竜の遠い親戚みたいな生き物ですよ。普通、攻撃しないでしょ。しかも、ハンマーなんていう超至近距離で使う武器なんかで。臆病者の僕としては、そこは麻醉銃で対処させて頂きたいですよ。それが全速力で逃げるか。

しかも、このゲームって、最後のほうになるとワニが一斉に猛スピードで出てくるのです。もう恐怖以外の何物でもないじゃないですか。現実だったら、おしつこもらしちゃいますよ、きっと僕なら。

まあ、似たようなゲームで『モグラが四方八方の穴ぼこから出てきて、そのモグラを叩いて得点を競うゲーム』っていうのもありますけどね。でも、こつちはなんか説得力がある気がしませんか。多分、ゲームの作成秘話にこんな話があつたら、妙に納得してしまう氣がします。

1900年。

アイダホ州で農業を営んでいた、バン・カルロス・ラッセル（46歳）はモグラの被害に頭を抱えていた。ラッセル『自慢のジャガイモは食い散らかされ、ジャガイモ本来の形を必要としないマッシュポテトに使用することはできても、形を利用するポテトチップスには使用することができなくなってしまった。

そこで困ってしまったのが、ラッセルの農家と契約を結んでいたポテトチップス製造会社の「アイダポテトーマス」である。

『ラッセルさんの『自慢ジャガイモを守らなくては!』』そう決意した、「アイダポテトーマス」社長ダ・ポテ・トーマス（37歳）は、従業員25名と共にハンマーを手に、ラッセルさんの畠へと向かつたのである。そのときの心境を、後にトーマス氏はこのように語っている。

「いやあ、あのときはただただ必死でした。食うか食われるかの戦いでした。まあ、そうは言っても実際に食われるのは、ジャガイモだけなんだがね。ハハハ。」

モグラとラッセル、トーマスとの戦いは3日にもわたって続けられた。そして、4日目の1900年〇月〇日、ついにラッセルの振り下ろしたハンマーがモグラの頭にクリーンヒットしたのである。奇しくもその日は、病氣で早く亡くなつたラッセルの妻の命日であった。

「きっと、妻が私に力を貸してくれたんだ、妻があのモグラを倒してくれたんだ。そうに違いない。…だけどあの達成感は今でも忘れないよ。何て言えばいいのかな。そうだな。強いて言えば初恋が実った、あの『イエス!』って感じかな。つて何を言わせるんだね、君たちは。」後にラッセルは自叙伝『アイダホの土よこんばんは』でこのように語つている。

その後、ラッセルとトーマスはバーでモグラ退治の祝賀会を開き、大いに盛り上がつた。

ここにまたま居合わせたのが、我が会社の初代社長、タターアイ

テ・ボロ・モウケである。モウケはラッセルとトーマスと意気投合し、ラッセルが話した達成感を世界中の子供たちに味あわせてあげたいと考えた。そして試行錯誤を重ねて〇年、19〇〇年〇月〇日、ついに世界を驚愕させるゲームが完成したのである。それが君の目の前にある『モグラが四方八方から出てきて、そのモグラを叩いて得点を競うゲーム』だ！さあ！君もハンマーをして、あの達成感を味わおうじゃないか！

いやあ、我ながらいい製作秘話ができたんじゃないでしょうか。映画化もできるんじゃないですかね。モグラにはCG技術なんか使っちゃって。

あつ、誤解されないよう言つておきますけど、この製作秘話は120%フィクションですからね。まあ、誰も誤解しないとは思いますが。本当の製作秘話は、僕は全くもつて知りません。本当の製作秘話は夏休みの自由研究として調べてみてはいかがでしょうか。

とまあ、散々意味の無いことを書き綴つてきましたが、皆さんもゲームセンターで『ワニやモグラが四方八方から出てきて、そのワニやモグラを叩いて得点を競うゲーム』を見かけたら、一度やってみてはいかがでしょうか。結構いい運動になりますよ。僕なんか、200円でもう汗だくです。

長々とへりくつ失礼いたしました。
またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その22 ワーキンググラフについて得点を競うゲームについて想ひ（後書き）

御覧頂き有難うござります。評価・感想等頂けたら嬉しいです。

その23 ランキングについて思うこと

最近、というかここ何年かで、ランキングが増えたような気がします。『CDセールスランキング』や『映画興行収入ランキング』等の王道なものはもちろんのこと、最近では『一度は行ってみたい旅館ランキング』や『世界の絶景ランキング』等の珍しいものまで、とにかくランキングブームでも起きてるんじゃないかというくらい、巷にはランキングが溢れ出ているような気がしてなりません。

ただ、このランキングブームについて、一つだけ腑に落ちないことがあります。それは、『それってランキングとしては確かになの?』ってことです。

『CDセールスランキング』とかだったら意味は分かるんですけど。ああ、今週の売り上げ順なんだなと。明確な数字が出てますもんね。ただ、『世界の絶景ランキング』とかについては、意味がどうしても理解できないんです。だって、『世界の絶景』の『ランキン

グ』なんですよ。そんなもん、人によって全くもって違うじゃないですか。人によっては金閣寺が一番だとか、万里の長城に勝るものはないとか、我が子の笑顔が一番だとかいう微笑ましい回答もある人もいるだろうし、家から見える桜の木だつていうマイホームパパだつているわけなんです。

そもそも、絶景っていうのは人の心を癒してくれる、地球が生み出した偉大なるセラピストなんです。ナンバーワンよりオンリー

ワンなんです。それに順位付けするっていうのは、少々野暮つたい話ではないでしょうか。

というか、もしこの『世界の絶景ランキング』が正当化されるんだつたら、こんなランキングも成立するんじゃないでしょうか。

『最強ランキング』

第一億〇〇万位

蟻

第128000位

空手を習い始めた小学生

第13532位 格闘家並びにそれと同等のヤンキー

第1986位 ティラノサウルス

第15位 自然災害

第2位 宇宙

第1位 神様

いやあ、意味が分かりません。書いている本人も、意味が分からりません。なんですか、第1位神様って。大体神様出しちゃつたら、ランキングのほとんどを総ナメしてしまって。『理想の上司ランキング』とか、『怒らせると怖いランキング』とか、『偉人ランキング』とか…。まあ、これ以上羅列して罰が当たつても怖いんでこれくらいにしておきます。神様、へりくつを語る上で登場させてしまい、本当にごめんなさい。

とまあ、いろいろと言つてきましたが、皆さんもランキングはあくまでも参考程度にして、自分なりの楽しい生活を送つてみてはいかがでしょうか。自分の価値観つてのはオンラインです。まあ、そんな偉そうなことを言つている僕自身、ファミレスの人気ランキングがやつていた後には、ついつい1位を頼んでいるんですけどね。だつて1位で間違いなく美味しいんですよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その23 ハンキンケヒツコトノ思ひ（後書き）

御覧いただき頂き有難い「J」れこます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

『命名』

漢字2文字で表す「ことのできる」の言葉ですが、この行為の重みは大層なものであると思います。だって、これから一生その名前で呼ぶわけですからね。まあ、だから子供が産まれたときなんかには、姓名判断や画数にかなりこだわるのでしょうか。

ただ、僕が思うに、中には『もっとちゃんと考えてあげれば良かったのに…』というのもいくつか存在してしまっているんです。

例えば、この命名。

『ウミヘビ』

もうね、ここまでくるとただの悲劇ですよ。何ですか『ウミヘビ』って。『海』の『蛇』って意味なんでしょうか。人間の僕がこんなに衝撃を受けているんです。ウミヘビたちにとっては、これ以上の衝撃だったはずでしょう。多分こんな会話がなされたに違いません。

とあるウミヘビ「た、大変だよ、井上さん！」

井上と呼ばれたウミヘビ（以下井上）「どうしたんだい、蝶野さん。ははーん。さては浮気がばれて、奥さんに実家に帰られちまつたんだな。」

蝶野と呼ばれたウミヘビ（以下蝶野）「何言ってるんだい。俺は硬派な男だよ、一人の女性しか愛さない硬派な男だよ。…って、そんなこと話してるんじゃないんだよー大変なんだよ、井上さんー。」
井上「だから、その大変なことを早く話してござらんよ。いつちだつて暇してるわけじゃねえんだから。」

蝶野「ああ。じゃあ、驚かないで聞いておくれよ。…実は俺た

ちの呼び名が決まつちまつたんだよ。」

井上「…はあ？」

蝶野「いや、だから、俺たちの呼び名が決まつちまつたんだよ！ああ大変だ、大変だよ、井上さん。俺たちの呼び名が決まつちまつたんだよ。」

井上「いや、何言つてるんだい、蝶野さん。呼び名つていつたつて、俺は井上だし、蝶野さんは蝶野さんなんじやないのかい？」

蝶野「井上さん。あんたも話の分からぬ男だねえ。いいかい。呼び名つていうのは、俺たちの分類の名称つてことだよ。例えばなあ、…ほら、そこら辺を泳ぎ回つている魚がいるだろ。ほら、あの魚だよ、長野さんとこのバ力息子。…そう、健太だよ。俺たちや健太つて呼んでるけどな、ありや人間に言わせると『イワシ』って言うらしいんだ。つまり、呼び名つていうのは、人間が俺たちのことを背格好や特徴が同じ奴等の事を呼ぶときに使つ名前つてことだよ。」

井上「なるほど、そういうことか。了解、了解。いやあ、それにしても蝶野さん、あんた博識だねえ。」

蝶野「やめてくれよ。じつはずかしい。まあ、これでも大学を首席で卒業してるからねえ。」

井上「ところで、その呼び名つていうのは、何になつたんだい。さぞかし立派な名前になつたんだろうね。」

蝶野「…ああ、そうだった、そうだった。いけね、このままだ大学に行つてましたつていう自慢話になるところだつた。いいかい。心して聞くんだよ。俺たちの呼び名は…。」

井上「俺たちの呼び名は？」

蝶野「ウミヘビだよ。」井上「…。はあ？なんだいウミヘビってのは。『ウミ』ってのはあれかい。海のことかい。じゃあ、『ヘビ』つてのはなんだい。なにか深い意味を持つた言葉なのかい。」

蝶野「いや、『ヘビ』つてのは、陸で生活しているひょろ

ながい奴で、おれたちにそつくりしこんだ。」

井上「え？ ジャナにかい。俺たちはその『ヘビ』って奴に似て
いる『海』に生活している奴だから、『ウミヘビ』だつていうのか
い。」

蝶野「まあ、そうだろうね。」

井上「冗談じゃないよ！ そんなバカな話があつていいのかい！
俺たちはずーっと昔の御先祖様の代から海で生活しているんだよ。
それを、その陸で生活している『ヘビ』って野郎に似ているからつ
て『ウミヘビ』なんて名付けられちやあ、俺は御先祖に申し訳ない
ね。ああ申し訳ないよ。だつてそうだろ。ほら、あそこで泳いでい
る魚を見てみなよ。あいつだつてひょろながいだろ。それなのにあ
いつの呼び名は凄い格好良いじゃないか。ほら、この前蝶野さんが
教えてくれたじゃないか。何て言つたつけ。… そう…『リュウグウ
ノツカイ』だよ。いやあ、格好良いよ。意氣じゃないか。それに比
べて、なんだい『ウミヘビ』つていうのは。ああだんだん腹が立つ
てきたよ。そもそも、何で俺たちが一番煎じなんだい。『リクヘビ』
だつて良いわけじゃないか。何！？ ドコかの就活サイトに似ている
？ そんな話はどうだつていいんだよ！ ああもつ我慢できねえ！ 直談
判にでてやる！」

蝶野「ちよつと、止めておくれよ、井上さん。」

井上「うるせえ！ 男に一言はないんだ！」

いやあ、井上さん。あなたの気持ちは痛いほど分かります。こ
の出来事を境に、ウミヘビは人間を噛むようになつたとかならない
とか。… まあ 120% フィクションですけど。それに、今落語の番
組を見ながら執筆しているせいが、会話が少し落語調。いやあ、影
響されまくりのエッセイですね。

皆さんも命名するときには、今一度注意してみてはいかがでし

ょうか。まあ、そう言つてゐる僕も、幼稚園児の頃に、補助輪付き自転車に『スーパー真也号』なんて付けてましたけど。ああ、今思ひ返すだけでも恥ずかしい。

それでは最後に、ウミベジさんと同じくらいうび名に怒つてい
るであろう方々を紹介して、今回のべりくつを締めさせて頂こうと
思っています。

『キクラゲ』

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その24 命名について思つゝ（後書き）

御覧頂き有り難うござります。
評価・感想等頂けると嬉しいです。

その25 表現方法について思うこと

小説やエッセイを書いていく中で、格好良い表現方法を使って『あつ、真浦塚真也って文才があるんだな』と思われたいという、どうしようもないナルシスト具合が少なからず顔を出してしまいます。えつ、そんなナルシスト具合なんか出さなくていいから、さつさと上手な作品を書き上げろって?ハイ、『ごもつともでござります。まあ、そんなこんなでいろいろな表現方法を使っているんですけど、そこでこんな感情が浮かんできました。

『この表現方法を初めて使った人は、まぎれもない天才なんじやないか』と。

皆さんも浮かんだことないですか、この感情。僕はショッちゅう浮かんでしまうんです。そこで、今回はその中でも特に感動した表現方法を、2つばかり紹介したいと思います。
まずは、こんな表現方法です。

『盆と暮れが一緒に来たような忙しさ』

いやあ、巧い。巧すぎですよね。目の前にてんやわんやしている当事者の姿が目に浮かびます。

でも、この表現方法を初めて使った人はどれくらい忙しかったんでしょうね。

だって盆と暮れですよ。高速道路が車で埋まる日ですよ。その人数に『ご先祖様が加わるんですよ。

だいぶ忙しいですよね。もしも日本最大のテーマパークでこの人が来園したら、大変になりますよね。もしかしたら、ホントもしかしたら、0・00001%ぐらいの確率で、あの親切な

従業員さんからあのキラキラした笑顔が一瞬消えてしまうかも知れませんね。

まあなんにせよ、この表現方法を初めて使った人。グッジョブ！

そして、もう一つの表現方法ですが、これはもう凄いです。見てもらったほうが早いでしょう。こちらです。

『苦虫を噛み潰したような顔』

いやあ、この表現方法を初めて使った人、天才でしょう。もう『表現の王様』と呼んじゃつてもいいんじゃないですか。少なくとも僕は呼びますよ。ヨツ、表現の王様！

何がすごいって、その勇気！

だって『苦虫を噛み潰した顔』ですよ。この表現方法を初めて使った人、確実に虫食べてますよね。確実に虫噛み潰してますよね。虫を食べることはもちろん、その味を吟味して、食べた瞬間の顔を自分で瞬時に観察して、『あつ、この顔はこうこう時に顔に似ているな』と考えて、実際に使ってみる。

いやあ、この表現方法を初めて使った人。あんたは偉い。グッジョブ！

とまあ、いろいろ書いてみましたが、皆さんも言葉の生まれた背景をいろいろ考えてみてはどうでしょうか。もしかしたら、皆が使っている表現方法にも、隠れたドラマがあるかもしれませんよ。よし、僕もへりくつエツセイの中から、何か新しい表現方法を考えてみようかな。『刺身にマーマレードをつけて食べたみたいな顔』美味しいものを食べた表情・思い』なんてどうでしょう。えつ、そのままだつて？ そうですよね、考え方直してみます。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その25 表現方法について思うこと（後書き）

御覧頂き有難いござります。評価・感想等頂けたら嬉しいです。

その26 女性の格好について思うこと

最近、だんだんと寒さが増し、気分がだんだんと落ち込んでまいりました。前にこのエッセイの中でも述べたんですが、僕は本当に寒いのが苦手で、寒いとテンションがどんどん下がってしまうんです。でも、『前にこのエッセイでも述べたなんですが』といつことば、このエッセイも早1年を経過したつてことになるんですね。いやあー、本当に有難うござります。これからも続けていきたいと思います、今のところは。

さて、そんなこんなで、寒い季節になつたわけですが、そんな中で僕が疑問に思つていることが一つ存在するんです。多分、皆さんも疑問に思ったことがあるんじゃないでしょうか。

なぜ、女性はこの時期でもスカートや短パンで外に出れるのか、と。

もうね、街中を歩いていると思うわけですよ。

『えつ！この時期にその格好！？寒くないの！？平気なの！？風邪引かないの！？大丈夫？本当に大丈夫！？えつ、なんかの罰みたいなものですか？寒さの中をミニスカートで歩く刑みたいな。それひどくないですか！そんな罰に黙つて従つているんですか！？ダメですよ、そんなの。嫌なら嫌つて言わないと。親御さんが悲しみますよ。親御さんだって、こんなことをさせるために東京に行かせたわけではないと思いますよ。まあ、故郷に帰りましょうよ。お父さんだって分かつてくれますよ。お母さんだって暖かいけんちゃん汁作つてあなたのことを待つていてるはずですよ。まあ、帰りましょうよ。』ついで、『まあ、途中というかほほフィクションですけど。なんか書いている途中で、『ストップ。過疎化！』みたいな標語が浮かんできました。まあ、要するに度が過ぎたつていうことですが。

でも、そのくらい、女性の方がこの時期にそんな格好でいることに、本当にびっくりして、ある意味尊敬しているんです。だって、もしも北極とかでこんな格好してたら、ほぼ死にますもんね。冷え性がどうとか言ってられないですもんね。

と、なんだかよく分からぬことをうだうだと言つてきましたが、とにかく、だんだんと寒くなつてくるので、あんまり寒さに打ちひしがれるような格好は程々にして、たまには着込んでみてはいかがでしょうか。この時期に風邪なんか引いたら、せつかくのクリスマスもお正月も、100%楽しめませんからね。うちの母親も、最近レギンスというものを履き始めたらしいですよ。まあ、どうからどう見ても『ザ・股引』ですけど。とりあえず、僕はコタツでぬくぬくを、決め込もうと思つています。

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょ
う。
失礼します。

その26 女性の格好について思ひ（後書き）

「」覧頂き有難うござります。評価・感想など頂けたら嬉しいです。

その27 「最悪」について思つゝ

『最悪。』

最近、よくこの言葉を耳にします。

「株価が過去最悪。」「うわあ、最悪だ。寝坊だ。」

「えー。明日雨なの。もう最悪ー。」

「あー寒い。最悪だ。」

…。

とこつよひこ、最近世の中に『最悪』といつ言葉が溢れだして
いるような気がします。まあ、不景氣の懐の寒さと冬の寒さの相乗
効果でそんなマイナスイメージの言葉を口にしてしまうのかもしれません。
あつ、なんか僕、今巧いこと言つたような気がします。
後で自分を誉めておきますね。偉い偉いってね。

まあ、そんな自画自賛は置いとくとして、ここでは少し『最悪』
について考えてみたいと思います。

最悪。

言葉にすると『最も悪い』になります。でも、そう考へると、『最
悪』といつ言葉を口にしている人って、大多数が幸せ者ですよね。
最高の最悪者ですよね。あつ、これはあんまり巧いこと言えてない
な。後で自分を叱つておきますね。コラコラつてね。

まあ、そんな自我叱咤は置いとくとして、話を進めたいと思
います。

『最悪』って言葉を頻繁に口にする人の『最悪』って、大多数
が寝坊とか雨とか寒さとか、実際はそんなにたいしたものじゃない
気がします。まあ、株価はかなりたいしたものですが。そんなた
いしたものじゃない事柄を『最も悪い』と言える人はかなりの幸せ
ものだと思います。多分そういう人は、キャビアを食べることは普

通になるんでしょうね。いや、もしかしたら『悪い』事柄に入るのかもしません。転んで血が出た日なんかは、孫の代まで語り継がれるかもしれません。いやあ、羨ましい。『傷なんて睡付けとけば治るんだ。それくらいでビービー泣くな。』と、転んだ時よりも痛い拳骨が飛んできたというエピソードを持つてゐる僕からすれば、何とも羨ましいかぎりです。

そもそも、最近『最悪』という言葉を浪費しそぎてゐるような気がします。『必ず殺す技』を使いまくつても倒せないようなRGゲームをやつてゐるわけじやないんだから、そんなに浪費しなくてもいい氣がします。

皆さんも、『最悪』の浪費には気を付けてみてはいかがでしょうか。あまり使いすぎると、こぞつていつときに『最悪』の残高が0円になってしまつてるかもしれませんよ。

と、今回一番の巧いことを言つたところで、今回のへつてつを締めさせてもうおひと思ひます。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

『見頂き有り難い』や『ます。評価・感想等頂けると嬉しいです。』

品格。

最近よくこの言葉を耳にします。もうブームみたいなもんです。品格が街に溢れています。そのつむ『おつ、品格が溢れだした。そろそろ大相撲が始まるのかな。』みたいに、品格で時事が分かるようになってしまったというような勢いです。いやあ、スポーツ選手じゃなくて良かったです。スポーツ選手だったら、今頃メディアで『品格注意報』が発令されていますよ、きっと。まあ、体育の成績がアヒルさんだった僕には要らぬ心配なんですねけど。

とにかく最近、まあ本当に品格が取り沙汰されています。本当に品格注意報が発令されてしまいそうです。

でも、そんなに『品格、品格』って求めすぎていると、世の中生きづらくなるんじゃないでしょうか。

例えば「こんなふうに」。

実況「9回裏、ツーアウト3塁、一打サヨナラの場面。バッターは頼れる主砲、西村ですーーまあ、西村打てるかーーそれとも上野が抑えるのかーー」

観客席

富元「いやあ、山口さん。盛り上がっていますね。」

山口「そりやそりやしちょう、富元さん。なんたつて優勝がかかっていますからねえ。」

富元「そうですね。よしーー山口さんーー西村選手を応援しますーー」

山口「そりやしちょうーーええ、ぜひそりやしちょうーー」

富元「フレー、フレーーー西村ーーー上野をブツつぶせーーー」

山口「ちよつ、ちよつと待つてください。富元さん。」

富元「どうしたんですか、山口さん。」

山口「富元さん。『ブツつぶせーー』はいかがなものかと。品格を問われますよ。」

富元「あらー、いやはや私としたことが。すいません。そうですね、品格がありませんよね。」

山口「そうですよ。ちゃんと応援しましょうよ。」 富元「そうですね。ちゃんと応援しな……。おっ、打った！ イケ、イケ！！！ なあーんだ、ファウルかあ。」

山口「富元さん！」

富元「び、どうしたんですか、山口さん。そんな怖い顔して。」

山口「富元さん、あなたねえ。『なあーんだ、ファウルかあ。』って。ファウルだとしても、西村はそこまでボールを飛ばしたんですよ。我々にあそこまで飛ばせますか？ いや、バットに当てることすら難しいでしょう。それをねえ、ガツカリなさるなんて。富元さん、あなたの品格を疑われますよ！」

富元「す、すいません、山口さん。そうですよね。」

山口「そうですよ。ちゃんと応援しないと。フレー、フレー、西村！ 頑張れ、頑張れ、西村！！」

富元「山口さん。」

山口「どうしたんですか？ 富元さん。」

富元「今考えたんですけど。我々は西村ぱつきを応援しているでしょ？ 仮にも上野は球界を代表する選手ですよ。それを、茨城ラビットファンだからといって、青森スネークの選手を応援しないというのは……。品格を疑われませんかね。」

山口「あつー！ 富元さん。あなたの言つとおりだ。どちらの選手も頑張っているんだから、どちらにも声援を送らないと。いやはや私としたことが。富元さん。精一杯声援を送りましょ？ 」

富元「そうですね。そうしましょ！」

富元・山口「フレー、フレー！ 西村忠仁さん！ フレー、フレー

！ 上野光司さん！ どちらも頑張ってください！」

いやあ…。せつめいつて面倒臭いですね。こんな野球中継はあまり見たくないもんですね。まあもし放送されたら、野球そっちのけで観客席にばかり注目してしまってそうですが。あつ、こんなこと言つてると富元さんや山口さんに怒られてしまつかも。

皆さんも、わかつて一度品格について考えてみてはいかがでしょうか。

もしかしたら、『品格、品格』と言つてこの姿こそが、一番品格のない姿なのかもしれませんよ。

長々とべつべつ失礼しました。
またお会いできたらお会いしましょ、う。
失礼します。

その28 品格について思ひ（後書き）

御覧いただき有り難うござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

白身魚のフライ。
美味しいですね、これ。

揚げ物を食べたいけど、健康に気を付けないといけなく、でも揚げ物は食べたく、かといってカロリーは無視できず、そんなことよりも、そもそもお金があんまりない僕にとって、この『白身魚のフライ』にはかなりお世話になっています。お歳暮や御中元を贈らなくちゃいけないくらい、本当にお世話になっています。

でも、この『白身魚のフライ』を口に入れる瞬間、まあ僕にとっては週一の頻度なんですが、毎回疑問に思つことがあるんです。多分、いや絶対皆さんも10回以上は疑問に思つているはずです。

白身魚のフライの『白身魚』って、一体どの魚なのか、と。

ほら、皆さんも疑問に思つていたでしょ？ 白身魚、白身魚つていうけど、結局何の魚なのって。

だって、このご時世ですよ。食品の記載は厳しく言われ、どこの国で生産されたか、どこの工場で生産されたか、野菜なんて、どこそれ県でなにそれつていう笑顔の素敵な農家の人があつ精込めて作りましたつて表記されて、チョコレートの保存方法には『高温、直射日光を避けてください』なんて考えてみれば当たり前のことを丁寧に表記される、このご時世にですよ。

いや、もしかしたら白身魚のフライはわざと『白身魚』なんていつふわっとした表記をしているかもしれません。『哀れなもんだ、表記にばかり翻弄されるなんて。大事なのはそれが何物であるかということより、それを口にするお前自身が何者であるかということなんじゃないのかい？』と私達に問いかけているのかもしれません。

皆さんも、白身魚のフライの問い合わせに耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

ちなみに僕は白身魚のフライの問い合わせには無視を決め込もうと考えてみます。だつて難しいことを考えながら白身魚のフライを食べたつて美味しくないですもん。それにその問い合わせに真剣に向き合つてたら、『へりくつエッセイ』なんていう、ふわっとしたエッセイなんて書いてられませんからね。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その29　白鯛魚のフライにてて思つゝこと（後書き）

御覧頂き有難いござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

いやあ、ついに『へりくつHACKセイ』もやの30を迎えるました。30ですよ、30。ついに、30ですよ皆さん。いやあ、これも毎度のへりくつに付き合ってくれる皆さんがいてくれるからこそ。本当に有り難うござります。

そこで、今回はお礼の意味を込めて、皆さんに『へりくつを生み出す方法』をお教え致します。え？ そんな方法知りたくもないって？ まあやうおっしゃらすに、ちょっとだけお付き合ってくださいな。

へりくつを生み出す方法。それは、『とりあえず口に出す。』、そして『そこには言葉を重ね続ける』、たったこれだけです。名付けて『へりくつミルフィーコ作戦』です。

口に出した言葉に根拠や証拠を求めてはいけません。はつきり言つてしまえば、意味を考えてもいけません。ただ、言葉を重ねてしまえばいいんです。根拠や証拠や意味を求める隙もないくらい言葉を重ねてしまえばいいんです。そして自分で完結しちゃえば良いんです。自分で完成させちゃえば良いんです。そうすれば、そこにはまあ見事なへりくつミルフィーコが完成されていることでしょう。

皆さんも、一度このへりくつミルフィーコを完成させてみてはいかがでしょうか。多分、恥ずかしさと『何やつてるんだろう、私は』という自己嫌悪が皆さんを優しく包んでくれるはずです。僕も包まれてます、恥ずかしいと自己嫌悪に。でも、何だかんだで30回もへりくつミルフィーコを作り続けています。多分これからも作り続けます。ですので、これからも、この恥を塗りたぐったような『へりくつHACKセイ』を温かい目で御覧頂けると有難いです。

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その30　ヨーロッパにて思つゝこと（後書き）

御覧頂き有り難うござります。
評価・感想等頂けると嬉しいです。

その31 都内の駅について思つ」と

最近仕事の関係で都内に出かけることがあるんですが、そこで不満に感じることが一つあります。多分、東京色に染まつていないうえで、方々なら僕と同じ考え方をお持ちのことだと思います。

『都内の駅は自己主張が足りない』と。

ほら、東京色に染まつていないうえで、分かるでしょ、この気持ち。

都内の駅は、自己主張が足りないんです。自分が駅だということを全然主張してこないんです。『えつ、ここにいたの。』と感じる駅が多すぎるんです。まあ、新宿駅みたいに『はい！俺、駅です！』みたいな駅は別として。

どうしてなんでしょう。駅にも『草食系』ってのが流行っているのでしょうか。もつと自分の存在をアピールしても良いと思います。たまたまコンビニエンスストアや漫画喫茶の看板にすら負けている駅もありますからね。

田舎暮らしに慣れている僕としては、駅さんには、50メートル先からでも分かるくらいの自己アピールを切に希望します。駄目ですよ、駅なんだから。もつと肉食系にならなくちゃ。まあ、そんなことを言っている僕自身、昨日の夕食は冷麦だったんですけどね。早くも夏バテ気味です、まだ6月ですけど。七夕では『夏バテしませんよ』と願つてみようと思います。

皆さんも、暑さに負けずに、駅に注目してみてはいかがでしょうか。

もしかしたら、今通り過ぎた建物は、どこかへ貴方を連れてつてくれる秘密の駅かもしませんよ。

長々とへりくつ失礼致しました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その31 都内の駅について思うこと（後書き）

「見頂き有り難う」やります。
評価・感想等頂けると嬉しいです。

その32 カレー屋の作業服について思うこと

最近、街中で本格的なインドカレーのお店をよく見かけるようになりました。まあ、カレー好きの僕としては嬉しい限りなんんですけど。

ただ、一つだけ腑に落ちないことがあるんです。多分皆さんも共感してくれることでしょう。

『カレー屋の店員の作業服が、なぜ白いのか』と。

ね、皆さんも共感してくれたでしょう。え？ コツクコートはだいだい白だろ？ いやいやいやいや。カレーに白はまずいでしょ。汚れるでしょよ。

だって、考えてもみてください。もし、あなたがカレーを食べる時に着ている真っ白なTシャツにカレーをこぼしたらどうしますか？ 慌てて染み抜きをしますよね。それでも落ちなかつたりどうします？ カレーですよ。なかなか落ちませんよ、彼ら。

そう、テンション下がるんです。絶対にテンションが下がるんです。ほら、カレーに白は常にこんなリスクと隣り合わせなんです。こんなリスクを背負いながら、カタコトの日本語で笑顔で接客してくれる店員さん、まああんたはなんて偉いのでしょう。心の中で心からの拍手を送りたいと思います。

いや。もしかすると、あの白い作業服はカレーで汚れることで本当の効果を發揮するのではないか。どうか。

だって、想像してみてください。茶色のカレーがかかった白い作業服。何を思い浮べましたか？

そう、カレーライスです。カレーライスなんです。もし、トイレストペーパーと人間が生きていく上で外に出さなくちゃいけない

モノを思い浮べちゃった方、多分お腹につつぶんとは違うモノが溜まってると思うので、ヨーグルトとかゴボウでも口にして、力一杯頑張ってください。

そう、彼らは自らをカレーライスに見立てて、『走る広告棟』ならぬ『働く広告棟』を演じているんじゃないでしょうか。そんな影の努力をしながらカタコトの日本語で笑顔で接客してくれる店員さん、まあーあんたは偉い！心の中で心からの喝采を浴びせようと思います。

皆さんも、そんな努力をしてる店員さんに感謝しながらカレーライスを口にしてみてはいかがでしょうか。本格的なインドカレー、本当に美味しいですよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたら、お会いしましょう。
失礼します。

その32 カレー屋の作業服について思ひ（後書き）

『 覧頂き有り難い』やります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その33 ネーミングについて想つ」と

田舎街中を歩いていると、いろいろなネーミングに出会います。

『とわつ、ふわつな〇〇』

『天使の〇〇』

『レモン〇〇個分の〇〇』

『〇〇によく効く〇〇』等々…。

本当に街中にはネーミングが溢れています。ネーミングの洪水です。ゲリラネーミングです。もしかしたら、そのうちネーミングだけの判断で市場が回るんぢやないでしょうか。だとしたら、こうしちゃいられません。僕もネーミング作りに参加して、一攫千金を狙わなくては。

でも、ネーミングってそんなに簡単に作れるもんじゃないですね。

よしー。それじゃあ、まずは『真似』から始めてみましょ。あつ、言つときますけど、『真似』ですかね。『ゴロー』じゃないですかね。あくまで『参考』にして『似せる』だけですからね。

よし、じゃあ某有名なあの野菜ジュースのネーミングを『真似』してと…。

『1日のかロリー、1切れ1本』

うーん。この商品、絶対ドロドロしてて、甘あざかるかしづぱすぎるかで、後味がキツいでしょうね。と言つた、飲めるんでしょうか、この商品。かなり濃度が強そうですね。ストローで吸う

タイプだつたら、吸い取くす」というのの口のカロリーを使い果たしてしまいます。

うーん。却下、ですね。

よし！それじゃあ、『逆転の発想』なんてどうでしょ？既存の根底を覆す発想、それこそ今の日本に必要ななんではないでしょうか。

よし、それじゃあ、某有名なあの、なぜか美味しいに感じるのは、あのネーミングに『逆転の発想』を施して…。

『カレー屋のそば』

うーん。趣味でしょ？ね。定休日に家族に振る舞つたら案外好評だつたんで、ちょっと調子に乗つちゃつたんでしょうね。

甘いですねえ。スパイスの匂いがブンブンする店内で、なんどソバなんでしょうね。纖細なソバの味が台無しじゃないですか。

えつ？じゃあそんな纖細なモノを扱つてる店でスパイスの匂いがブンブンするカレーを出してるのかつて？おお、正に『逆転の発想』。

それは、あれですよ。田には見えない…ソバ屋の店主…パワーハーモニ…よし…却下…

うーん。やつぱり、ネーミングを作るのは難しいですね。どうやら僕には消費者の方が性に合つてるみたいですね。

皆さんもネーミングについてもう一度考えてみてはいかがでし

ょうか。もしかしたら、今手にしてる商品さんは、ネーミングのビックさに内心ビクビクしているのかも知れませんよ。

長々とべつべつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

それにしても、『ビックさんにビクビク』って。オヤジギャグにしては度が過ぎてますよね。いやあ、歳をとるのは恐いものですね。

あつ、失礼致しました。 失礼します。

そのまゝ ネーミングについて思つゝ」と（後書き）

「 覧頂き有難うござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その34 究極の選択について思うこと

一応前書きしちゃいます。

今回の『へりくつエッセイ』には、多少お下品な表現が含まれています。お下品な表現な苦手な方、嫌悪感を感じる方は黙読するのはお控え下さい。また、音読するのは絶対にお控え下さい。音読することによって、貴方が世間から植え付けられたイメージについては、僕は責任をとりません。

『選択』。

人間は人生を送る中で何らかの選択をしなければいけません。就職、結婚、家の購入等の大きなものから、今日の夕飯は蕎麦にしようかうどんにしようか、目玉焼きに醤油をかけるかソースをかけるかといった小さな物まで、人生は本当に選択の連續なのです。

そんな『選択』の中にも、『究極の選択』と言われるものがあるのを、皆さんはじ存知でしょうか。『選択』の中でも忽然と輝く、『究極の選択』と言われるものがあるのを、皆さんじ存知ですか。それは、この選択です。

「うん」味のカレーとカレー味の「うん」、食べるならどうすか?」

もうね、なにが凄いって、これを『究極』と言えてしまふ日本の発想能力。凄いですねえ、日本人。まだまだ捨てたもんじゃないですねえ。

でも、実際この選択を投げ掛けられたらなんて答えればいいんでしょうね。まあ、僕だったら『そんなもん食えるかっ！』って有りつけの関西気質で、まあ、地元は茨城なんで曖昧関西で突つ込みたいと思います。でもまあ、断れないでしょうね。多分こんなこと言つたら、『あー、真浦塚くんダメなんだー、どっちか食べないといけないんだよ！いーけないんだ、いけないんだ！先一生に言ってやる。』と無駄な先生プレスをかけられてしまいそうです。まあ、一番迷惑なのは先生なんでしょうけど。

そもそも、この『うんこ味のカレー』と『カレー味のうんこ』ってなんなんでしょうか。なんでこんな不得体の知れない物を食べる事が『究極の選択』なんでしょうか。いや、『究極の選択』に長年君臨するくらいです。なんか特別な『うんこ・カレーヒストリー』があるに違いありません。例えばこんなふうに。

ーとある小学校ー

井上少年（以下井上）「あつ、田中くんおはよー。」

田中少年（以下田中）「あつ、井上くんおはよー。」

井上「はあーああー（意味深な溜め息）」

田中「ど、どうしたの、井上くん。」

井上「聞いてよ、田中くん。日曜によねつちの家行つたんだけ

“えー。

田中「あつ、そういうえば田曜よねつちの誕生日会だつたんだよね。僕、塾でいけなかつたんだ。どうだつた？」

井上「どうもこうもないよー最悪だよ！」

田中「え？ なんで？」

井上「いやあ、よねつちの母ちゃんが誕生日会だからつてカレー作つてくれたんだけどさ。」

田中「えつ、カレー？ いいな、僕、カレー大好きなんだ。いいなあ、行きたかつたなあ。」

井上「いいことなんかあるもんか！ 濃い不味かつたんだよー。」

田中「えつ、何が？」

井上「カレーがだよ。カレー、がー本当に不味かつたんだから。あれは本当に不味かつたよ。うんこみたいに。いや、もう、うんこだね！ うんこ味のカレーだね。」

田中「えつ！ 井上くん、うんこ食べたことあるのー？」

井上「は？」

田中「えつ、だつて『うんこみたいに不味い』つて…。井上「違うよ。例えだよ。アンモニアを嗅いで『腐つた卵』つて言つみたいなもんだよ。」

田中「えつ！ 井上くん、腐つた卵嗅いだことあるのー？」

井上「だから、例えだつて言つてるだろー。」

田中「：ごめん。」

井上「いいよ、別に謝らなくたつて。ああー、でもよねつちの家のカレー不味かつたなあー。」

田中「そうだね。たべるなら美味しいカレー食べたいよね。」

井上「そうだよなあ。あつ、そういうえば田中くんのお父さんつてホテルの「ツクさんじやなかつたつけ？」

田中「う、うん。」

井上「いいなあ、カレーも美味しいんだろうなあ。」

田中「う、うん。いつもホテルで作つてるみたい。」

井上「いいなあ、幸せじゃん。」

田中「う…うん。」

井上「ん? どうしたの?」

田中「う…うん。カレーは美味しいんだけどさ。最近1ヶ月、朝晩ずっとカレーなんだ。」

井上「えつー田中くん、インド人だったの?」

田中「ううん、日本人。」

井上「…分かつてるよ。冗談だよ。」

田中「…ごめん。」

井上「…いいよ、謝らなくて。でも、なんでカレーばかりなの?」

田中「うん。なんかホテルでカレーフュアやるんだって。それで毎日試作品作つてて…。」

井上「そつかあ、それも大変だなあ。」

田中「うん。飼つてるジョンも毎日カレー食べさせられて可哀想なんだ。」

井上「えつージョンつてインド犬なの?」

田中「ううん。秋田犬。」

井上「…だ・か・ら、冗…。」

田中「うめん。」

井上「…いいよ、喰い氣味に謝らなくて。でも大変だね、ジョンも。」

田中「うん。フンもカレー臭くて參っちゃうよ。」

井上「うわあ、それ最悪だなあ。いや、でも、そんなにカレーバっかり食べてたら、ジョンのうんこも美味しくなつてるんじゃないの?」

田中「えー、そんなことないよ。だつてうんこだよ。」

井上「いや、そこそこイケるんじゃないかな? 少なくとも、よしねつちの家のカレーよりは美味しい」と思つよ。」

田中「いや、でも…。」

井上「田中くんは、よねっちゃんの家のカレー食べたことないからそんなこと言えるんだって。本当に不味かつたんだから。じゃあ、一緒に行ったハッキーに聞いてみようよ、どっちを食べるか。もしかしたら、ジョンのうんこ選ぶかもしれないよ。」

田中「えつ？…でも、よねっちゃん可哀想だよ。」

井上「大丈夫だつて。」

田中「えつ、…でも。」

井上「いいから、いいから。おーい、ハッキー。」 ハッキーと呼ばれた少年「ん？どうしたの。」

井上「いやあ、実はさあ…。」

ストップ!!

ダメです。これ以上はよねっちゃんがあまりにも可哀想です。このイジメの火種となりそうな会話をやめるにはどうしたらいいか。それは、今回の『くりくつエッセイ』をお開きにする以外に方法はありません。皆さん、くれぐれもこんな残酷な質問を真似しないようお願い致します。真似していいのは、冗談が通じない田中くんの生真面目さのみです。

皆さんも、もう一度『選択』について考えてはいかがでしょうか。実は、もう貴方の中で答えが出ているのかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その34 究極の選択について思ひ（後書き）

『見頂き有り難い』とあります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

『〇〇風』。

ここ最近になつて、よくこの言葉を耳にしだしたような気がします。とこりか、使い過ぎなような気がします。例えて言つなれば、ひと昔まえに何処かの川に異常発生したボラくらい。

もうそれくらい『〇〇風』が発生しかやつてるんです、異常發生しちゃつてるんです。なんなんでしょう、この異常発生。これも地球温暖化の『』える影響でしょつか。だとしたら、自然の影響つて恐ろしいですね。

そもそも、『〇〇風』ってなんなんでしょうか。『実際は〇〇じゃないけど、〇〇に近い、いや、もう〇〇と見分けがつかないほど〇〇らしい、〇〇的な、〇〇要素をこれでもかと詰め込んだ物』ってことなんでしょうか。

でも、だとしたら『〇〇風』って物凄い技術の詰まった形態なのではないでしょうか。だって、実際には〇〇じやないんですけど、限りなく〇〇に近いんですよ。とにかく、〇〇に近付ける技術は、もう世界レベルの技術と言つてもいいんじゃないでしょうか。

例えば、『手仕込み風トンカツ』。これつて、実際には手で仕込んでない訳じやないです。でも、一般的に売られている商品と違つて、そのトンカツには手で仕込まれた感じがあるわけじゃないですか。だとしたら、これつて物凄いことですよね。手で仕込んでないのに手で仕込んだ感じ。じゃあ、何で仕込んだんでしょうか。

…足…でしょつか。…まあ、足…でしょつか。手じゃないんですものねえ。じょあ、足でしょつか。

でも、いれって凄いですよね。足で手を再現する。しかも、薄利多売の製品だから、一日に何万個も。いやあ、凄いですね。

時には、トンカツの衣が足のツボを刺激して涙ぐむときもあるでしょつか。

時には、水虫や外反母趾の為に、志し半ばで泣く泣く左遷させられる従業員もいたことでしょう。

『〇〇さん家の旦那さん、足でトンカツ作つてゐるらしいわよ。』

と近所で噂になったこともあったでしょう。

でも、彼らは足でトンカツを仕込み続けてくれるんです。我々に『手仕込み風』を伝えるために仕込み続けてくれるんです。

だとしたら、僕たちは何をしなければいけないか。そう、美味しく食べなくてはいけないんです。仮に足で仕込んでいたとしても、手で仕込んだと思いながら、美味しく頂かなくてはいけないです。なんにせよ、従業員の方々、あんたらは偉い！

皆さんも、『〇〇風』との付き合い方をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。何も考えないで使つてると、その内『たぬきそば風きつねうどん』みたいな着地点の意味が分からぬ商品が市場を占領してしまうかも知れませんよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

あつ、そうそう。『手仕込み風トンカツ』なんですが、多分あれは機械で作っているんでしょうね。

：大丈夫です。『足で仕込んでいる』といつ発案の違和感は、書いている本人が一番感じることですから。

失礼します。

その35　『〇〇風』について思ひる（後書き）

『J 覧頂き有り難い』とれます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その36 イルミネーションについて思うこと

最近街を歩くと、至る所にきらびやかなイルミネーションが目に飛び込んできます。『ああ、もうクリスマスなんだな。それなのに俺は、仕事仕事。発泡酒を飲むのもままならないのに。ああ、ああー。』と、イルミネーションに人間社会の愚痴を、知らず知らずのうちにぶつけている方もいることでしょう。

でも、このイルミネーションって、本当に許可を取っているんでしょうか。相手方は納得して、あんなきらびやかなイルミネーションを行っているんでしょうか。いや、多分無許可の装飾がほとんどでしょう。だって、あの数の多さですよ。都会なんて、駅の周りは全部イルミネーションみたいなもんですよ。それに一つ一つ許可を取る。いやあ、無理無理、無理ですよ。もしそれが出来たら、日本選挙の投票率は、ほぼ100%に決まりますよ。

えつ？さつきから真浦塚真也はなにを『無理』だと言っているんだつて？イルミネーションは業者が管理者にちゃんと許可を取っているに決まってるじゃないかって？

違いますよ。僕が言っているのは、『装飾させられている方々への許可ですよ。だつて当たり前じゃないですか。イルミネーションの装飾を飾られるのは、管理者じゃなくて、木や建物や地面な訳ですよ。それなのに、管理者には許可を取つて、実行される方々には許可を取らずにいきなり執行。いやあ、こんなこと、最近問題になつてる『パワーハラスメント』みたいなもんですよ。ただでさえ、普段勝手に触つたり、踏んだり、中に入つたり、寄りかかつたり、待ち合わせ場所にしたりして、『セクシャルハラスメント』まがいのことをしているのに、そこにまたまた『パワーハラスメント』だなんて。もし木や建物や地面に、人権みたいな権利があつたら、今ごろワイドショーは、某伝統芸能のケガしちゃった事件なみに大きく取り上げられてしましますよ。

皆さんも、街中のイルミネーションに向かって見てはいかがでしょうか。

もしかしたら、あのきらびやかさは、装飾の電気のせいではなくて、装飾させられている方々の恥ずかしさによる赤面のせいなのかもしませんよ。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その36 イルミネーションについて思うこと（後書き）

御覧頂き有難うござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

その37 奇跡の言葉について思うこと

田代の携帯電話やパソコンを使用していくと、自分自身による言葉の間違いとそれを無理やり変換してしまう携帯電話やパソコンの悲しい嵯峨によって、なんとも言えない不思議な言葉が誕生してしまつことがあります。僕自身はそれを『奇跡の言葉』と呼んでいます。だつて奇跡じゃないですが、双方が間違えることによつて言葉が生まれるなんて。まあ、8割がたは日本語を正しく理解していない僕自身に問題があるのですが。

と言つことで、今回は僕が出会つた中で衝撃を受けた『奇跡の言葉』を2つほど皆さんに紹介していくつと思ひます。まず1つ目は、『体育』から生まれた『奇跡の言葉』です。『体育』は、皆さんご存知の通り本来読み方は『たいいく』です。でも日常では私たちは『たいく』と発音しています。その為、本来発音している通りに入力してしまうと、日本の優れた変換機能は無理やり『奇跡の言葉』を誕生させてしまうのです。

『タイ苦』

うーん。単身赴任中の悲しきで父親の本音でしうね。愛する妻と娘を残して熱意を持つて来てみたものの、海外の生活が馴染まなかつたのでしょう。原因は何だつたのでしょうか。パクチーが口に合わなかつたのでしょうか。まあなんにせよ、中々の『奇跡の言葉』です。『奇跡の言葉ドキュメンタリー賞』でも『えておけ』つと思ひます。

そして2つめは『原因』から生まれた『奇跡の言葉』です。これはよく誕生させてしまつ言葉です。誕生させすぎて『奇跡』の価値を下げてしまつくらい、よくやつてしまつ『奇跡の言葉』です。『原因』は周知の通り本来の読み方は『げんいん』です。でも普段の私たちは『げいいん』と発音しています。その為、本来発音している通りに入力してしまうと、日本の最先端変換機能は、こんな『奇

跡の言葉』を誕生させてしまつのです。

『鯨飲』

皆さん、ついに未確認超巨大生物の発見ですよ。だつて、『鯨』を『飲む』のですよ。『鯨』を『食べる』のではなく、世界最大の哺乳類である『鯨』を『飲む』のですよ。食べるというのであれば、シャチだって食べていますし、人間だって、まああんまり書くと他方面の人から批判されてしまうかもせんが、ベーコンや竜田揚げにして食べています。でも、飲むとしたら話は変わりますものね。どうやって飲むのでしょうか。やはり、蛇のように丸呑みにしてゆつくりと消化していくのでしょうか。だとしたら、海の中の蛇みたいな生物ということで、ウミヘビの一種なんでしょうか。だとしたら、かなり大きなウミヘビですよね。主食がシロナガスクジラだとしたら、最長で34メートルのものが計測されているから、それ以上つてことですね。体長が34メートルでウミヘビの仲間。うーん、もう恐竜みたいなものですね。まあなんにせよ、かなりの『奇跡の言葉』です。『奇跡の言葉大発見で賞』でも『えておこう』と思ひます。

皆さんも、『奇跡の言葉』と上手く付き合つてみてはいかがでしょうか。もしかしたら、今送つたメールの中に『奇跡の言葉』が隠れていて、先方でちょっととした話題になつているかもしれませんよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。
またお会いできたらお会いしましよう。
失礼します。

その37 奇跡の言葉について思つゝと（後書き）

「」 覧頂き有難うござります。
評価・感想等頂けると嬉しいです。

その38 表現方法について思ひつけ

小説やエッセイを書いていく中で、格好良い表現方法を使って『あつ、真浦塚真也つて文才があるんだなあ』と思われたいという、どうしようもないナルシスト具合が少なからず顔を出してしまいます。えつ、そんなナルシスト具合なんか出さなくていいから、さつさと上手な作品を書き上げろつて？ハイ、『ごもつともだい』ざいます。まあ、そんなこんなでいろいろな表現方法を使っているんですけど、そこでこんな感情が浮かんできました。

『この表現方法を初めて使った人は、まぎれもない天才なんじゃないか』と。

皆さんも浮かんだことないですか、この感情。僕はショッちゅう浮かんでしまうんです。そこで、今回はその中でも特に感動した表現方法を紹介したいと思います。

えつ？この冒頭の文章、どこかで読んだことがあるですか？ええ、その通りです。まあこんな世の中ですから、エッセイの文章もリサイクルでエコにいきましょう。大丈夫です。リサイクル元の文章を書いたのも僕ですから、パクリとか著作権とかそういう問題は皆無ですから。まあ問題といえば、『その40』に到達していないにもかかわらず、もうリサイクルに走っている僕自身のネタ切れ感にあるのでしょうか。

まあ、何はともあれとりあえず発表させていただこうと思います。今回、僕が感銘を受けた表現方法はこちらです。

『鳩が豆鉄砲をくらつた様な顔』

いやあ、凄いですね。凄すぎますね。すぎますね。

皆さんも聞いたことがあると思します、この表現方法。いやあ、物凄いですね。もう別格ですね。凄すぎて、『凄い』と言つのも失礼かもしれませんね。

だつて、『鳩』が『豆鉄砲』をくらつた『顔』ですよ。特異すぎるのでしょ？、このシチュエーション。

僕今まで見たことないですよ、この光景。蛇に睨まれている蛙や、泣いているときに鉢に刺されてしまつた子供なら見ることがあるかもしだせんが、鳩が豆鉄砲をくらつた光景なんてなかなか眺めませんよ。

もしかしたら、へそで湯を沸かす、びっくり人間と同じくらいの衝撃映像なかもしません。

僕がこんなに驚いているくらいですから、多分撃たれた鳩さんはかなりの衝撃だったのでしょうか。例えばこんな風に。

いやあ、雨が止んでよかつたよかつた。あんまり降られちまつと、地面がぬかるんで歩きにくいつたらありやしないよ。

さてと、それじゃあそろそろ飯とするかな。そろそろ//ズさん
が引っ越しを始めるころだつて、急がなくぢや。ああ、膝が痛い。
まったくなんでこんなに足が細いのかねえ。普通この図体だったら、
もう少し立派な足でもいいと思うんだがね。いやはや、進化という
のは、不便というか世知辛いというか。

どーん。

アイタタタ。タタタタター。ありやありや、これはこれは人間さん。申し訳ないねえ、ちょっと考え方してみてねえ。申し訳ない、申し訳ない。鳥だけに上の空に行きたがるもんで、こりゃ申し訳ない。それじゃあ、お互いお気をつけて。

ん？どうしたんだい人間さん。いやいや気にしないでおくれ。こ
う見えても若いうちは『胸張りのトミさん』なんて呼ばれたもんさ。
どこも怪我しちゃいないよ。いやあ、なになにやつきの『アイタタ
』は掛け声みたいなもんさ。なーに気にする?とはないさ。さて

と、それじゃあお互いお気をつけて。

ん？どうしたんだい人間さん。あれもしかしたら人間さん、あんたが怪我をなさったのかい。やや、それは大変だ。どうしよう救急車を読んだほうがいいかい。もしそうならば、わしに任せておきなさい。足にくるつと文でも括りつけてくれれば、すぐに大学病院までひとつ飛びさ。いやいや氣になされるな。こう見えても若いうちは『胸張りの…』。

ん？どうしたんだい人間さん。ん？なんだいその手に持つているのは。やや！いやはや、やや！おいおい人間さん。その手に持つているのは銃じゃないか！駄目だぞ、人間さん、早まっちゃいけないよ人間さん。やや！これ人間さん。冗談でもそんなものこちらに向けてはいけないよ。それは『冗談がきつすぎるよ人間さん』。

…おい。冗談だらう、人間さん。撃つかい、私を撃つかい、人間さん。…これは大変なことになりますぞ、人間さん。こう見えても人間さん、私たち鳩は『平和の象徴』ですぞ。『平和』ですぞ。『平ら』で『和やか』ですぞ。私を撃つたらどうなるか分かるでしょうに。さあさあ、そんな銃はしまいなさい。

…そうか。どうしても撃つというのだな、人間さん。…そうか。よし！そういうことなら人間さん、わしも腹をくくるうじゃないか。ええい！見くびつてもらつては困るぞ、人間さん。『チキン野郎』等というのは人間がつけた勝手な想像！本当のチキンはどんなものか見せてあげましょう。さあ、どこからでも撃つてきなさい！

バーン！！！

ひいっ！！！

…ん？…豆？これは…豆じゃないか人間さん！いやあ、そういうことでしたか、人間さん。いやはや、一本取れれましたぞ人間さん。いやあ、泣いてしまつかと思いましたぞ。いやいや、泣いてなんぞおりませんぞ、人間さん。これは皮膚の一部、決して涙でも眼ヤニでもありませんぞ。いやはや、あーよかつた。あーハツが痛い。あー膝も痛い。…ミミズにはグルコサミンは入っていなかね

え。

いやあ、ついにドッキリの世界も人対人の枠を超えたんですね。人対鳩、いやあ斬新な設定ですね。そのうち廻り回つて鳥対鳩のドッキリなんかも放送されるかもしませんね。まあ、放送されてもただのアニマル映像でしょうけど。

皆さんも、田ごろ使つてゐる表現方法を見直してみてはいかがでしょうか。もしかしたら、その表現方法にはアカデミー賞レベルの誕生ドラマが隠されているかもしませんよ。

長々とへりくつ失礼いたしました。
またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その38 表現方法について思うこと2（後書き）

「」見頂き有難うございます。評価・感想等頂けると嬉しいです。

お願い

今回、鳩と豆鉄砲のシチュエーションについて書きましたが、あくまでエッセイ内の話なんで、絶対に真似しないでください。もし真似して、そのことを友人に話したり、その様子を動画投稿サイトで発表したりして、周りの評価が下がることになつたとしても、僕は責任を取れませんので。…まあ、誰もこんな馬鹿馬鹿しいこと真似しないか（笑）

西野さんになぞなぞです。としあとはどもどうしたことしほんだ。

さあ、なんでしょう？

えつ、『ふんどじ』へそつですね。とちぢめたら性犯罪ですもんね。ハセ長疑惑とか言つたられない事態になつちやこますもんね。

えつ、『諭し』？まあね、思春期ですもんね。とやかく言われたくないですもんね。

えつ、『歳』？ああ、そもそもとりたくないってやつですね。そうですね、永遠の18歳つてのもいいかもせんね。

ブー、時間切れ。正解は『厄年』。えつ？なぞなぞじやないじやないかつて。いやいや。なぞなぞと言つておいて、正解がいたつて普通、これこそが謎謎ですよ。まあ、いつもながらのへりくつですが。

厄年。皆さんも耳にしたことがあるのではないでしょつか。もしかしたら、もひ経験したことがある方もいらっしゃるかもしれません。今回はこの厄年についていろいろと書き綴つてこいつと思ひます。

まずネーミングですよね。すこですよ、この『厄』の持つ負のオーラ。巷では『凶』や『税』や『党』と並ぶほど嫌われているとかいないうか。この漢字を造った人は天才ですね。『厄』の呪いにからずに一生を遂げたことを願うばかりです。

そして、厄年の凄いところはなんといつてもその長さ。その長さたるや、『ハッピーニューイヤー』を叫んで喉を痛めるから始まつて、節分して鬼に怒られ、花見で酔つ払つて上司に悪態をついて、5月病にかかる仕事が手に付かず、梅雨の雨で携帯を壊し、初夏で風邪引き、猛暑で倒れ、残暑で脱水、張り切つた運動会でアキレ

ス腱を痛め、読書の秋で読みすすめた本は映画公開でオチを先に知り、食欲の秋でプクプク太り、クリスマスにはサンタと間違われ、カウントダウンではジャンプをしたものの、アキレス腱の痛みもあって結局新年の瞬間は地球上にいるの結末で締める、まあ一長い長い365日なわけです。

しかもタチの悪いことにこの厄は前後合わせて3年も続くという長期スパン。3年ですって。いやあ、長い。プロ雀士も舌を巻くトリプル厄満ですね。もしかしたら3年寝太郎が寝たのは、このトリプル厄満を回避するためだつたのかもしれません。

皆さんも厄年とは上手に付き合つてみてはいかがでしょうか。ちなみに僕は、今回『トリプル厄満』というオヤジギャグを言ったために、厄年を題材にエッセイを書いたことによつて、今後来るであろう厄年に上乗せ加算がされないかどうか、今から気が気でありません。御守り買っておこうつと。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その39　厄年ヒツコト思ひハジメ（後書き）

「お見頂き有り難いハジメります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

お疲れさまです。真浦塚真也です。

いやあ、この『へりくつHッセイ』も遂に『その40』を迎えた。当初は『その20』くらいで終わらせるつもりだったのに、もう倍近く。人間でいえば人生半ば。セミでいえば一族の歴史。これも皆さんが読んでくださるお陰です。本当にありがとうございます。

さて、毎回10回区切りでこりせりして番外編みたにな（番外編つて書くと、このHッセイがちょっと高貴な作品に感じるのは僕だけでしょうか）形式で書きなぐってきた（書きなぐると書くと、このHッセイがちょっと芸術性がある作品に感じるのは僕だけですか）訳ですが、今回は特に書くことがないので、このへりくつHッセイを書き始めた経緯について『説明をせて頂こうと思います。

『ああ、何か堅そうな回だな』と思われたら、『その40』は飛ばし読みしちゃってください。余分『その41』からまたへりくつぱっかりこねているでしょうから。

『へりくつHッセイ』を書き始めた理由、それは2つあります。1つは馬鹿馬鹿しい作品を書きたかったら。そしてもう1つは『へりくつ』がどうしようもなく好きだからです。

僕は子どもの頃から理屈っぽい人間でした。毎日『可愛げのないおとなしい子』『だつたらしい』です。そして、『へりくつぱっかりこねてるおとなしい子』でもあつたらしいです。どちらにせよおとなしい子、要するに寡黙なダンディズム坊やだつたらしいです。まあ、『へりくつぱっかりこねてる』のだから、決しておとなしい子ではないとは思いますが。

子どもの頃はよく怒られたもんです、『へりくつぱっかり言つ』など。まあ今でもいい年にもなつて怒られていますが。いや怒るな。』と。まあ今でもいい年にもなつて怒られていますが。いや怒る

られるところよつは叱られてる方が近にかもしません。

ただ、この方たちが言つ『へりくつ』って『へりくつ』じゃないんですよ。『屁理屈』なんですよ。僕が好きなのは『へりくつ』であつて、『屁理屈』じゃないんですよ。皆さんには違いが分かるでしょうか。僕にもよく分かりません。じゃあ、偉そつて論ずるなとこう話ですが。

ただ『へりくつ』は、『屁理屈』が持つているような、意地の悪さや、力強さや、相手を言に負かせてやううとこう闘争心は全くないのです。『へりくつ』は、弱くて、脆くて、柔らかい、そんなりくつのように感じます。

多分僕が今まで書き綴つた36個くらいのへりくつも、そんな弱いどうしようもないものだと思います。でもその柔らかい感じが、僕は結構好きです。『でも』、『だつて』、『しかし』に滅法弱い、そんなへなちょいぐわいが、僕はなんとなく好きです。

皆さんにも、そんな感じのHッセイを今後も愛して頂けたら(愛して頂けたらなんて書くと、このHッセイが老舗の箱入り最中みたいに感じるのは僕だけでしょうか)幸いです。

まあ、何が言いたいかと申しますと、今後も『へりくつHッセイ』は、ゆるーくあるーく進んで行きますのよろしくお願ひしますとこいことです。

長々とへりくつ失礼致しました。

またお会いできたらお会いしましょう。

失礼します。

その40 40回について思つゝ（後書き）

御覧頂き有り難うござります。
評価・感想等頂けると嬉しいです。

その41 東京タワーについて思うこと

スカイツリー。皆さんはもう御覧になつたでしょうか。

すごいですね、スカイツリー。あの堂々たる姿、本当に圧巻ですね。ダンとしてガツとしてショウとしたフォルム、スカイツリーの名の「」とく空にそびえし大木つて感じですよね。

いやあ格好良いです、スカイツリー。なんならスカイツリーの魅力だけを延々と語つて今回の戯れ言を終わらせたいくらいです。ただ、残念ながらそうはいきません。実はこのスカイツリーのお陰で、大変な迷惑を被つておられる方がいらっしゃるんです。

：いや、そりや今までそこら一体をマークリングしていたお犬様は大変でしょうけど。あんな直径が長い建物を自分臭に染めるのは、尿道が悲鳴をあげるでしょうけど。今の「」時世、マークリングは飼い主さんによって無効にされることを「」理解ください。

：いや、そりやスカイツリーのせいで洗濯物が乾きにくくなつて怒つておられる主婦の方々もいらっしゃるとは思いますけど。「お陰で」つてのはその陰のことをしてているんじゃないんです。

：そうです。東京タワーさんです。東京タワーと答えた皆さん、サブタイトルをよく読んで頂いて感謝致します。

そうなのです。東京タワーさんが非常に迷惑しているんです。

だって考えてみてくださいよ。東京タワーですよ。今まで日本

のタワー界を牽引してきた、紛れもなく日本のタワー界代表ですよ。タワー界代表になるにはさぞかし大変だったのでしょうか。なにせ札幌のテレビ塔や通天閣、京都タワー等の大御所はもちろんのこと、大分の別府タワーや愛知のツインアーチ138、山口の海峡ゆめタワーといった、ニュースターまで相手にしないといけないのであるね。見てください、東京タワーさんがあのお姿。歴然の戦いのせいで、もう鉄筋だけのガリガリな身体じゃないですか。

それなのに、それなのにですよ。ぱっと出のルーキーが、こと

もうううに同じ土俵である東京で、333メートルを超える634メートルなんていうテカいなりで、俺は東京なんか目じゃないんだ、俺はもつと上を目指すんだと言わんばかりに、名前に『スカイ』と着けて、立ち上がったんです。

もう東京タワーさんにとっちゃ迷惑極まりないですよ。最近では、スカイツリーの愚行に身体全体を真っ赤っ赤にして怒っていたり、夜になると真っ青になってしまったり、時には節電と言付けて自分の姿を隠すがごとく闇にとけたりするとかしないとか。

あーあ。もう情緒不安定ですよ。東京タワーさん、可哀想！

皆さんも、もつ一度東京タワーさんに目をやつてみてはいかがでしょうか。やっぱり良いもんですよ、東京タワーさんって。

何が良いつて、高さがちょうどいい。何ですかね、634メートルつて。軽度の高所恐怖症の僕にとって、恐怖以外の何物でもないですからね。願わくば、東武ワールドスクエアーくらいの大きさで収まつて頂きたい限りです。

長々とへりくつ失礼しました。

またお会いできたらお会いしましょう。
失礼します。

その41 東京タワーについて思ひる（後書き）

御覧頂き有り難いござります。評価・感想等頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0172f/>

へりくつエッセイ

2011年11月17日17時52分発行